



すぱい

あぁ♡

世間知らずの娘
ライブチャット編

くりた あかり
『栗谷朱里』

高校を卒業後はライブチャットを生業とし、
画面向こうの男たちで荒稼ぎをしている。



他に働く術を持たず、
男のことは金稼ぎの道具としか思っていない。
男遊びをしているかのようにだが、実は男性経験を
知らない世間知らずな女——……

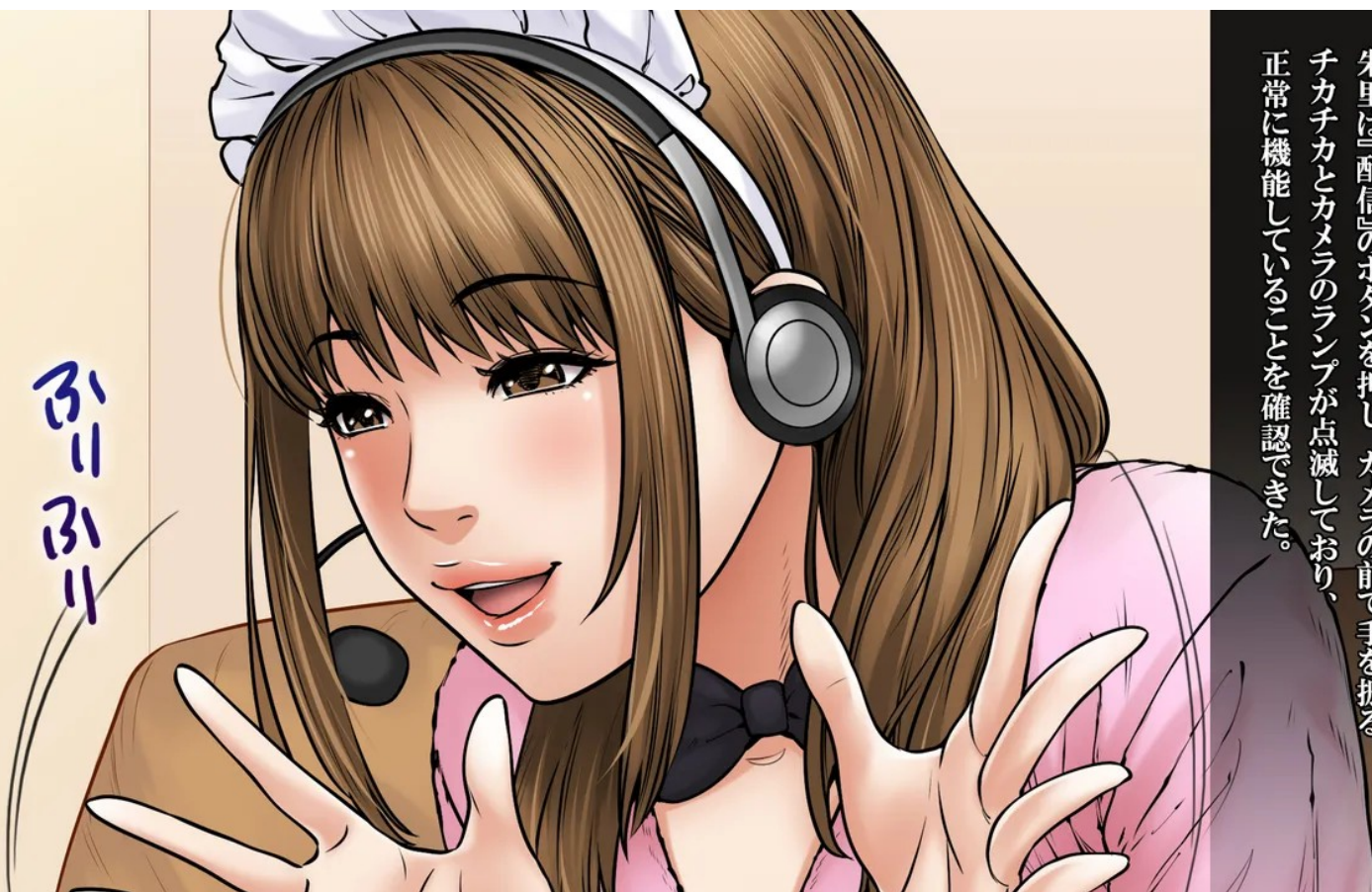
朱里は最近引越したマンションで、
今日もライブチャットの準備を進めていた。
パソコンの電源を入れ、カメラの角度を調整する。
「さて、今日もやりますかっ」



「ちゃんと映ってるかなあ？」

朱里は『配信』のボタンを押し、カメラの前で手を振る。
チカチカとカメラのランプが点滅しており、
正常に機能していることを確認できた。

ふりふり



「まだ人も少ないし、集まるまでちょっと雑談タイム♪」

ルーム内の人数をチェックしつつ、人があつまるまで
適当な雑談で時間を潰し始めた。

一人、また一人とルームに人が集まり始める。



「来た来た！朱里ちゃんのライブ♥」

朱里のライブチャットの常連でもある「充」は、
すぐに朱里の配信をチェックする。



「朱里ちゃん、相変わらず可愛いなあ♥

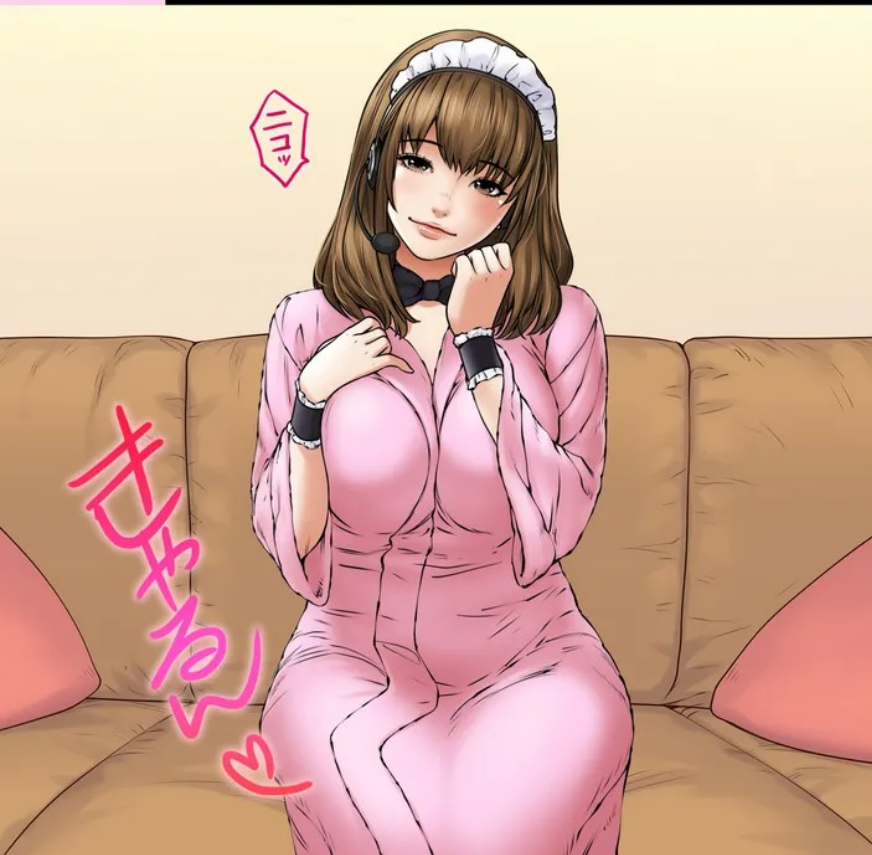
おっぱいまた少し大きくなったんじゃない? ふひひっ…」

充は、画面越しの朱里の姿を舐めまわすように見つめる。
口元が無意識にニヤニヤと緩み、今から始まるライブに
心は躍り始めていた。



マルチ

2人チャット中 1人のぞき中



朱里：皆さんこんばんは！

朱里：朱里で～す

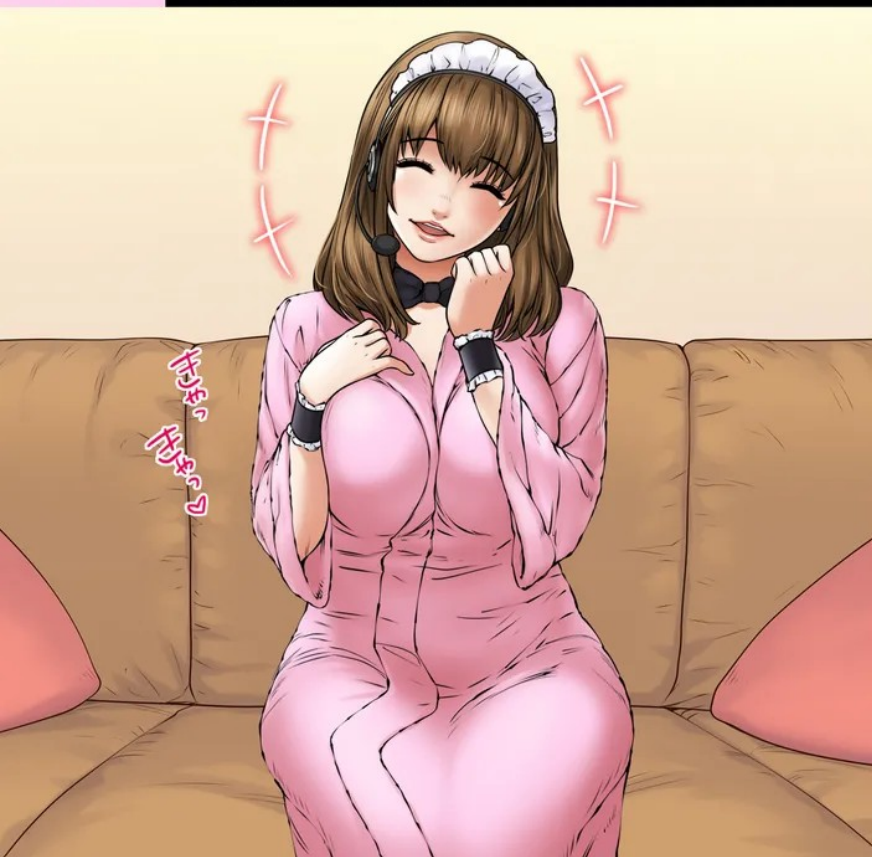
鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは

充：朱里ちゃん今日も可愛すぎる

「実は最近引っ越して、新居からの配信なんですよー！
部屋は広いし、外も静かですごく快適なんだけど、
部屋の壁が薄いのがちよつと心配かな。」
朱里はクスツと小さく笑った。口元に手を添えて胸をキュツと
腕で包み込み、色っぽい仕草を見せる。

マルチ

4人チャット中 3人のぞき中



朱里：皆さんこんばんは！

朱里：朱里で～す

鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは

充：朱里ちゃん今日も可愛すぎる

ピエトロ：早く脱げ

朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～

朱里：今日も頑張ります！

朱里：充さん！

いつもありがとうございます！

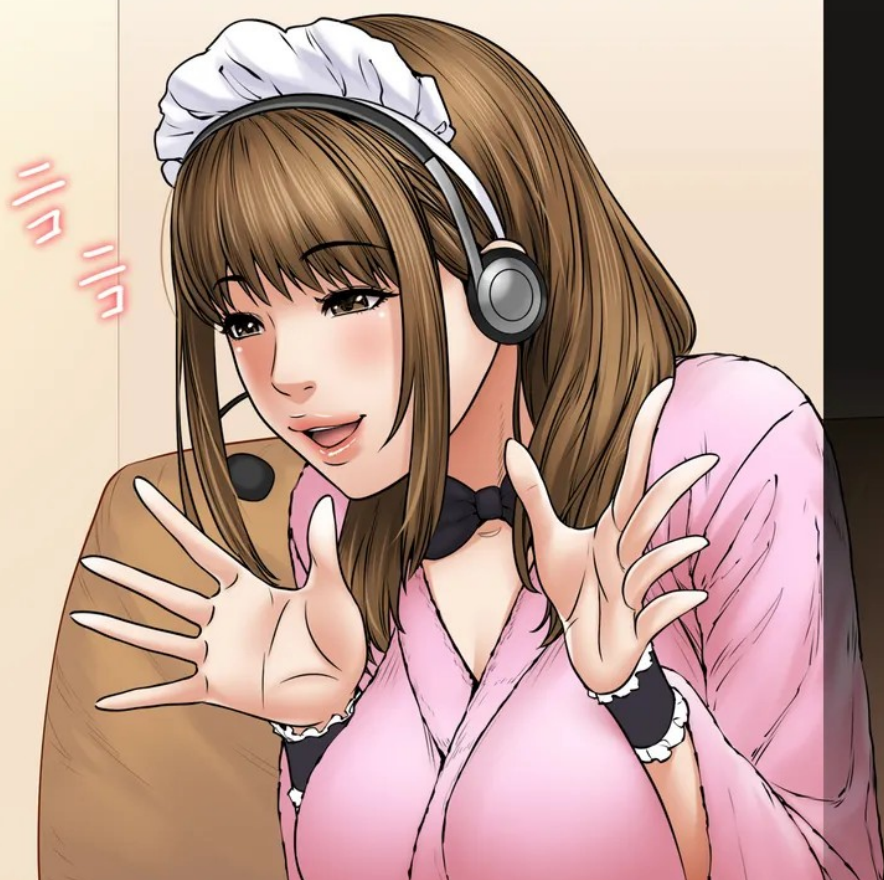
朱里：来てくれて嬉しい～

朱里：ピエトロさん初めまして～

朱里：えwいきなりですか～

「あーみなさん、こんばんわ♡
今日も来てくれてありがとうございます！」
チャット欄に常連の名前を見つけ、朱里は声をかける。
ニコニコと人の好きそうな笑みを浮かべ、嬉しそうな声色で
お礼を述べた。

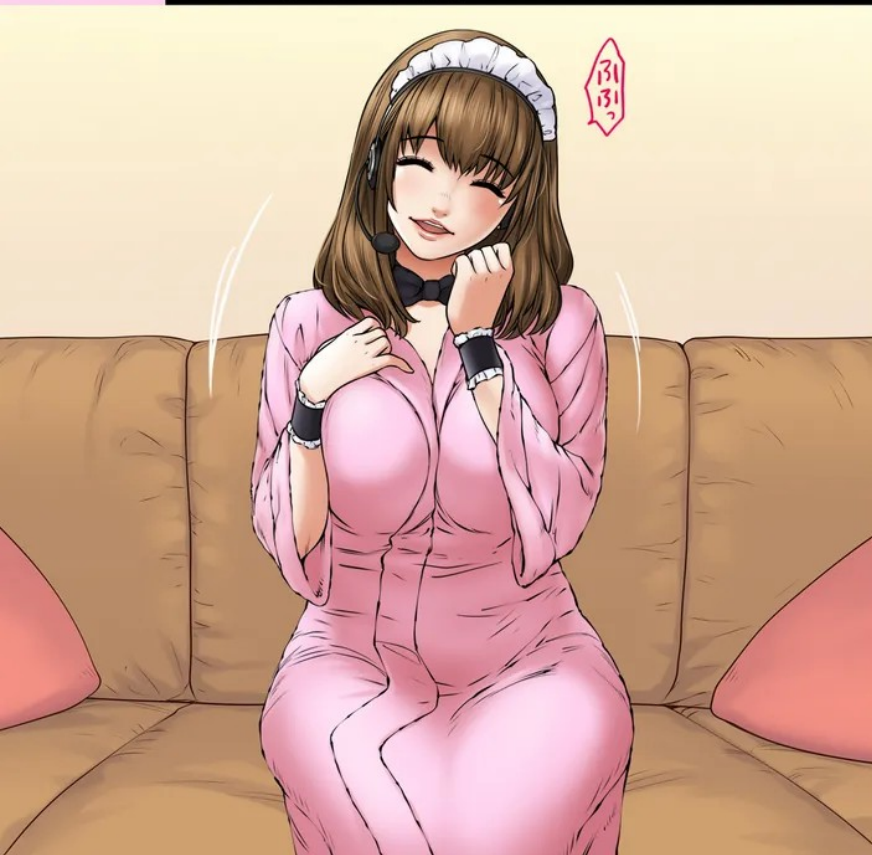
「もう、ピエトロさんは気が早いですね
初めて見るけど、初見さんかな？こんばんわっ」
新規層を取り込もうと媚を売る朱里。



(……ふふっ、また一人カモが来たかな？
ちゃんと搾り取ってあげるから、安心しなさいよ♡)

マルチ

4人チャット中 3人のぞき中



朱里：皆さんこんばんは！

朱里：朱里で～す

鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは

充：朱里ちゃん今日も可愛すぎる

ピエトロ：早く脱げ

朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～

朱里：今日も頑張ります！

朱里：充さん！

いつもありがとうございます！

朱里：来てくれて嬉しい～

朱里：ピエトロさん初めまして～

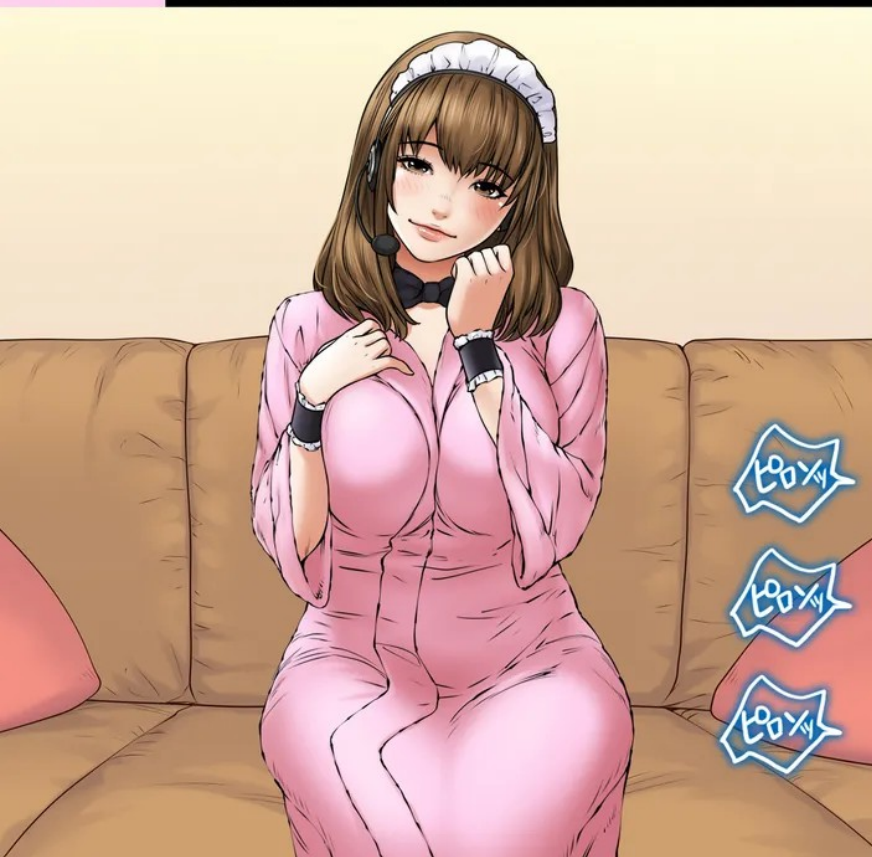
朱里：えwいきなりですか～

充：朱里ちゃん今日はガウンなんだね？

朱里：はいそうなんです！

朱里：この下にみんなが
喜びそうな衣装着けてます！

『朱里ちゃん、今日はガウンなんだね？』
「えへ、気づいちゃいました？」
今日はこの下に、みんなが喜びそうな衣装着けてます！」
充からのチャットに、朱里は待つてましたとばかりに
すぐさま反応した。



朱里：皆さんこんばんは！

朱里：朱里で～す

鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは

充：朱里ちゃん今日も可愛すぎる

ピエトロ：早く脱げ

朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～

朱里：今日も頑張ります！

朱里：充さん！

いつもありがとうございます！

朱里：来てくれて嬉しい～

朱里：ピエトロさん初めまして～

朱里：えwいきなりですか～

充：朱里ちゃん今日はガウンなんだね？

朱里：はいそうなんです！

朱里：この下にみんなが

喜びそうな衣装着けてます！

鉄人45号：なにそれ気になる！

充：朱里ちゃんは何着ても似合うから♪

ピエトロ：早く脱げ

ピエトロ：早く脱げ

ピエトロ：早く脱げ

チャットが進むにつれ、ルームへのアクセスが少しずつ増える。
朱里はトークを続けながら、髪をかき上げたり、
足を少し動かして肌をチラ見せするなどして焦らした。
「何着ても似合うって、そんなことないですよ♡
ふふっ、充さんありがとうございます♪」

「んふうー♥朱里ちゃんに名指しでありがとうだつて♥」

何気ない朱里の言葉に、充は息を荒くした。
先の展開に妄想を膨らませながらニヤニヤが治まらない。



マルチ

4人チャット中 12人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？

充：ガウン脱いで欲しいな

ビエトロ：だから早く脱げよ

朱里：みんな下が気になるみたいですね！

「みんなこの下が気になるみたいですねゝ
……(ふふっ、そろそろ前置きはいいかな)」

ピロン…ピロン…
コメントが書かれていく。

マルチ

4人チャット中 12人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？

充：ガウン脱いで欲しいな

ビエトロ：だから早く脱げよ

朱里：みんな下が気になるみたいですね！

朱里：それじゃあ皆さんから

朱里：1000コインいただいたら

脱いじゃいますよ～

充さんが1000コイン送りました。

鉄人45号さんが1000コイン送りました。

ビエトロさんが200コイン送りました。

「じゃあ、一〇〇〇コインで脱いじゃいますよ～♡」
朱里がそう言った瞬間、一斉に投げ銭が投入される。
常連の二人は迷わず指定の一〇〇〇コインを与えるも、
新人だと思われるピエトロは初期に貰える二〇〇のみだった。
朱里は内心ため息を漏らした。



「わあーみんなありがとう！」
高い声色で朱里は嬉しそうにする。
「……(常連はいつも通り♥だけど初見はダメね。
こいつからは何も期待できないわ。ま、しょうがないか。)」
心の中で品定めをしつつ、表向きだけは愛想よく振る舞う。

マルチ

4人チャット中 17人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？

充：ガウン脱いで欲しいな

ピエトロ：だから早く脱げよ

朱里：みんな下が気になるみたいですわ！

朱里：それじゃあ皆さんから

朱里：1000コインいただいたら

脱いじゃいますよ～

充さんが1000コイン送りました。

鉄人45号さんが1000コイン送りました。

ピエトロさんが200コイン送りました。

朱里：凄い！

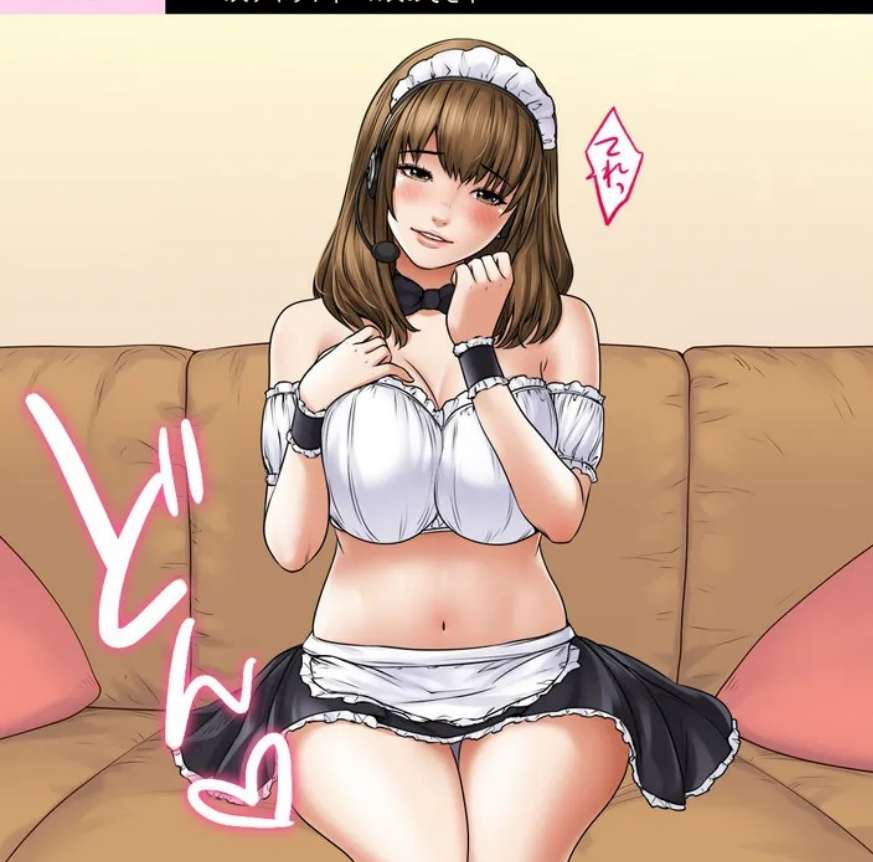
こんなにありがとうございます～

朱里：じゃあ脱いじゃいます！

「じゃあ、約束通り脱いじゃいますね♡♡」
画面向こうの男共が、自分に欲情していると思うと、
言い表せないほどの優越感が溢れてくる。
朱里はガウンに手をかけ、ゆっくりとみせつけるように
時間をかけて脱いだ。

マルチ

4人チャット中 17人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？

充：ガウン脱いで欲しいな

ピエトロ：だから早く脱げよ

朱里：みんな下が気になるみたいですね！

朱里：それじゃあ皆さんから

朱里：1000コインいただいたら

脱いじゃいますよ～

充さんが1000コイン送りました。

鉄人45号さんが1000コイン送りました。

ピエトロさんが200コイン送りました。

朱里：凄い！

こんなにありがとうございます～

朱里：じゃあ脱いじゃいます！

朱里：じゃーん！下はちょっとエッチな
メイド衣装でした～

「じゃーん♥下はちょっとエッチなメイド衣装でした♥♥」
ガウンを脱ぎ捨て、その下からは露出の多いメイド衣装が
姿を現した。朱里は少し照れくさそうに頬を染めつつ
胸を寄せて谷間を強調させる。
「コインいっぱい貰ったから、ちょっとサービス♥」

マルチ

4人チャット中 17人のぞき中

観人45号：どんな衣装だろう？

充：ガウン脱いで欲しいな

観人45号：はあ、目ノ肥ばト

乳首勃ってる？

エロい

ノーブラじゃん

おっぱいおっぱい！

もっとカメラに寄って！

おおっ！キタ——(´▽`)——！！

「朱里のおっぱい見えますかあ？」
カメラに胸元を近づけ、アップで映し出す。
コメントが続々と流れ、朱里は胸を高鳴らせる。
「ふふっ、みんなに悦んでもらえてうれしい♪」

マルチ

4人チャット中 17人のぞき中

観人45号：どんな衣装だろう？

充：ガウン脱いで欲しいな

レオ：……おまんこ目ノ脱げト

勃起不可避hshs

パンツパンツパンツパンツパンツ

45454545454545

へそ可愛い♥



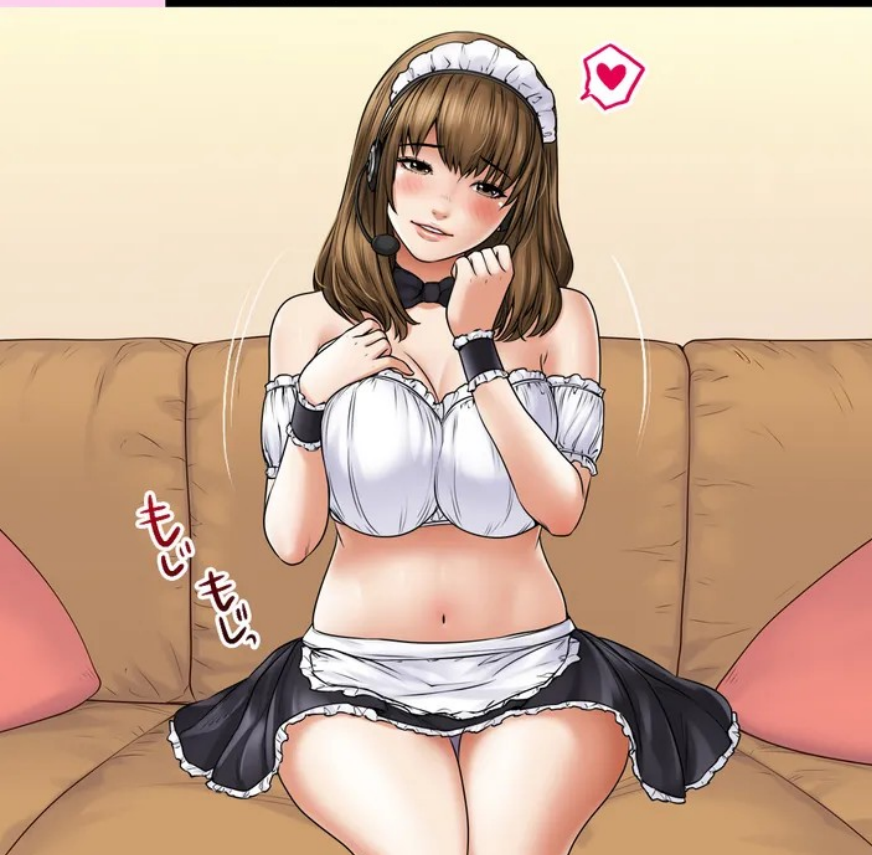
もっと足開いて見せてー！

見えそうで見えないのが逆にエロいな

「下もすごい短くてちよつと恥ずかしいですぅー」
更にカメラを下へとスライドさせ、見えるか見えないか
といったギリギリのラインを責めたてる。
「……(本当、男ってチヨロいわ)」

マルチ

4人チャット中 17人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？

充：ガウン脱いで欲しいな

ピエトロ：だから早く脱げよ

朱里：みんな下が気になるみたいですね！

朱里：それじゃあ皆さんから

朱里：1000コインいただいたら

脱いじゃいますよ～

充さんが1000コイン送りました。

鉄人45号さんが1000コイン送りました。

ピエトロさんが200コイン送りました。

朱里：凄い！

こんなにありがとうございます～

朱里：じゃあ脱いじゃいます！

朱里：じゃーん！下はちょっとエッチな

メイド衣装でした～

鉄人45号：似合いすぎる！

充：とっても可愛いけど

動いたら下も見えちゃいそう…

ピエトロ：それも脱げ

朱里：鉄人45号さんありがとう～

朱里：実は胸には絆創膏貼ってるんで

朱里：ポロリはないです！

朱里：ピエトロさんはせっかちですね～

「みんなテンション上がってきたみたいですね♡」

朱里は体をくねらせ、胸元や太ももをわざと見せる。その度に反応する閲覧者に優越感を感じていた。

マルチ

4人チャット中 10人のぞき中



朱里：脱ぐのもいいですけど

朱里の恥ずかしいところ

見てくれませんか？

鉄人45号：見たい！

今日はその衣装でしてくれるの？

充：いつでも準備できてるよ

ビエトロ：見せてみろ

朱里：それじゃあ恥ずかしいけど

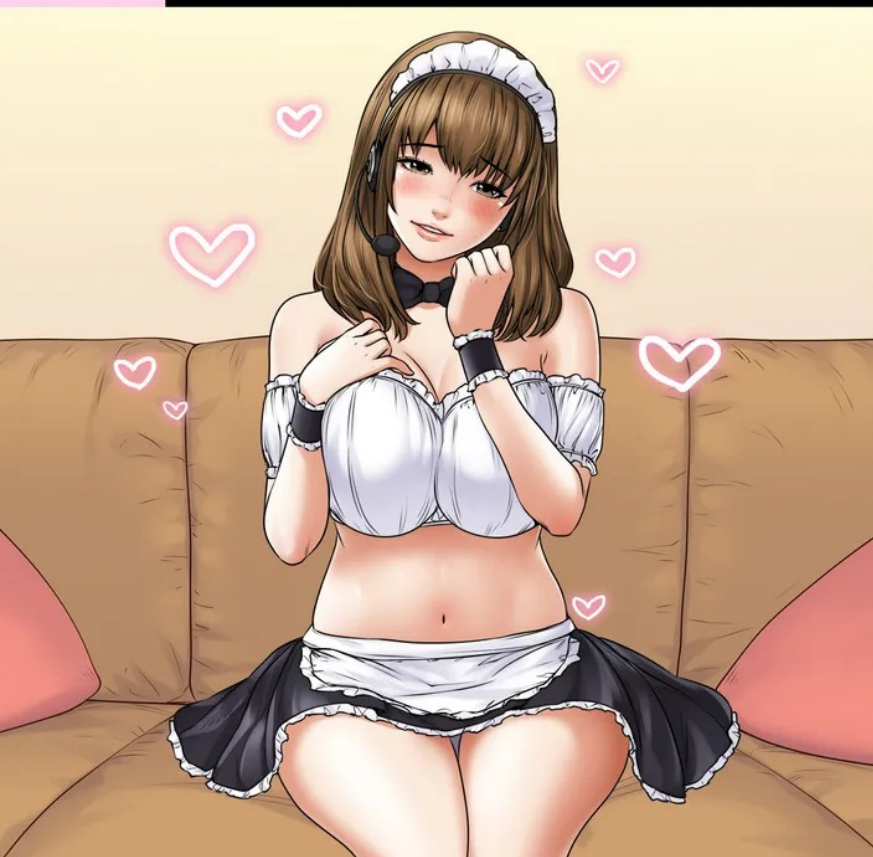
5000コインいただいたら

見せちゃおうかな

「脱ぐのもいいですけど
朱里の恥ずかしいところ見てくれませんか？」
そういうと、ピコピココメントがすぐに流れた。
朱里はすかさず「五〇〇〇コイン」を要求する。
「コインいただいたら見せちゃおうかな♡」

マルチ

3人チャット中 21人のぞき中



朱里：脱ぐのもいいですけど

朱里の恥ずかしいところ

見てくれませんか？

鉄人45号：見たい！

今日はその衣装でしてくれるの？

充：いつでも準備できてるよ

ピエトロ：見せてみる

朱里：それじゃあ恥ずかしいけど

5000コインいただいたら

見せちゃおうかな

充さんが5000コイン送りました。

鉄人45号さんが5000コイン送りました。

ピエトロさんがこのルームを退出しました。

朱里：充さん、鉄人45号さんありがとう～

朱里：二人とも大好きです！

朱里：ピエトロさんどうしちゃったのかな？

鉄人45号：朱里ちゃん早く見せて

充：準備は万全だよ

朱里：それじゃあはじめるね！

朱里：今からちょっとチャットは

できなくなるけど…

朱里：朱里の恥ずかしいところ見てください

「わあ、ありがとうございます！二人とも大好きです！
今からチャットできなくなるけど朱里の恥ずかしいところ
見てください♡♡♡」
ピエトロはルームを退出したが、
常連からはいつも通り指定分のコインが届く。

「うほっ…♥朱里ちゃんのショーだぁ♥♥」

充は息を荒くし、パソコンの録画ボタンを押した。
画面向こうの展開を期待して思わず涎が垂れ落ちる。

「ふふっ…今日も楽しませてもらおうかな。」

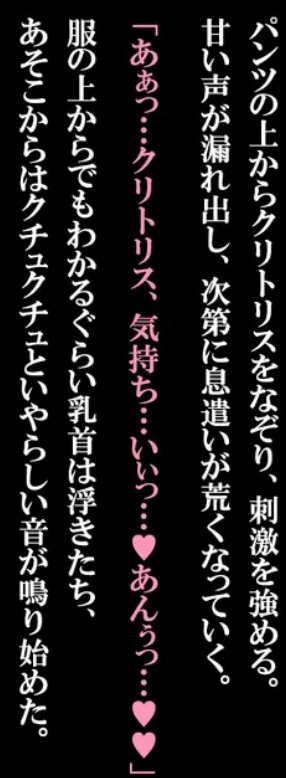


朱里はソファに体をあずけ、カメラに向かって足を広げる。
胸を揉みながらそろそろとあそこに手を伸ばす。

「んっ……はあっ……あんっ……」

指を上下に動かすと、微かな刺激を感じた。
パンツにじんわりとシミが広がっていく。





「あぁっ…クリトリス、気持ち…いいっ…♡あんうっ…♡♡」

あそこからはクチュクチュといやらしい音が鳴り始めた。

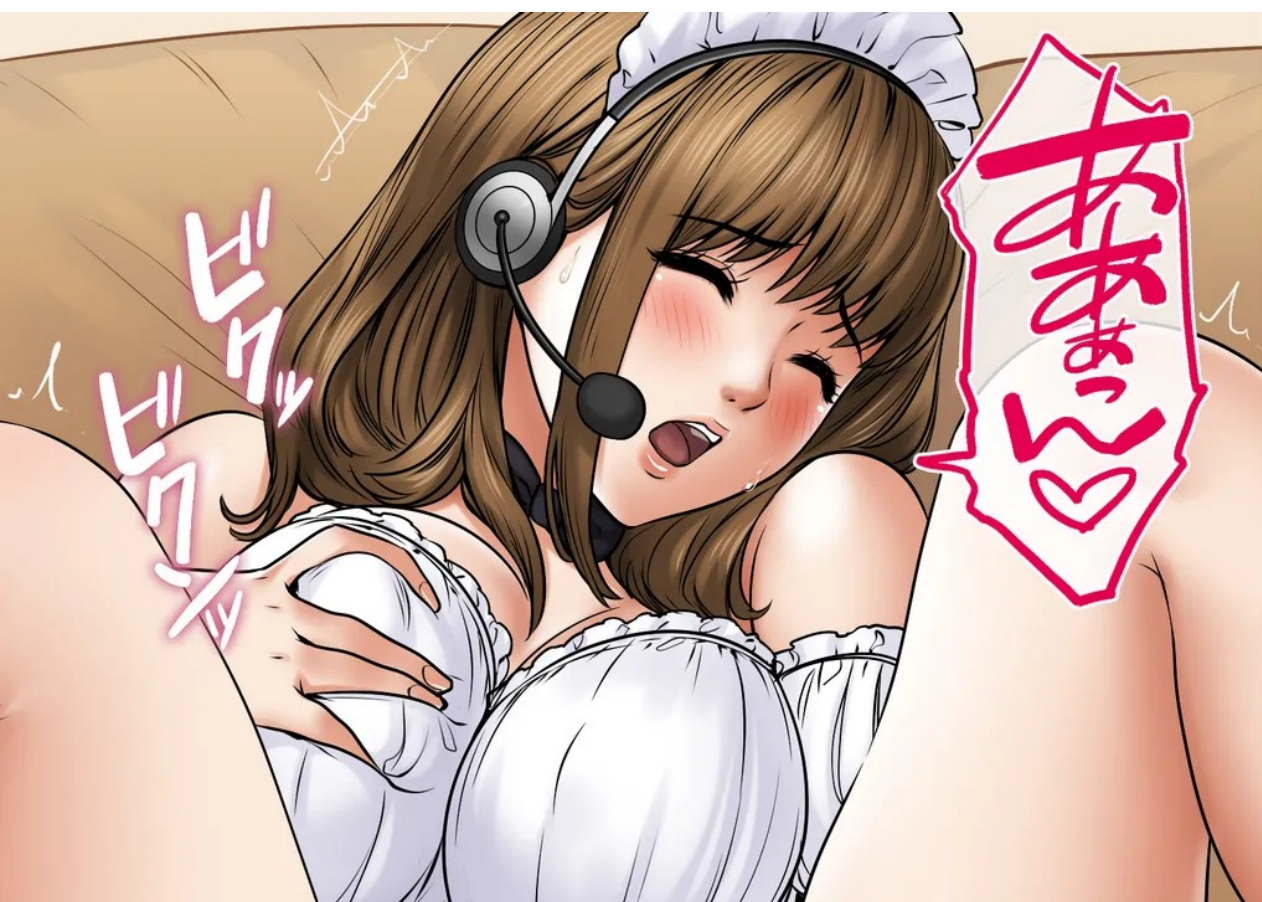


「あんっ♡…あふっ、ひい…ん♡
みんな…ああっ…見えてるっ！ひいっん…ああああっ♡」
身体がビクンッと跳ねて、時々大きな声を上げる。
乳首をカリカリとひつかいたり、クリトリスをいじると
感度が高まってカメラを忘れそうになっていた。

「はあはあはあ……はあつ……
朱里ちゃんエロいなあ……やりてえな。」

画面に顔を近づけながら食い入るように観賞する。
下半身をギンギンにしながら、朱里とのセックスを妄想し、
感情が昂つていく。





ひととき大きな喘ぎ声が漏れた。

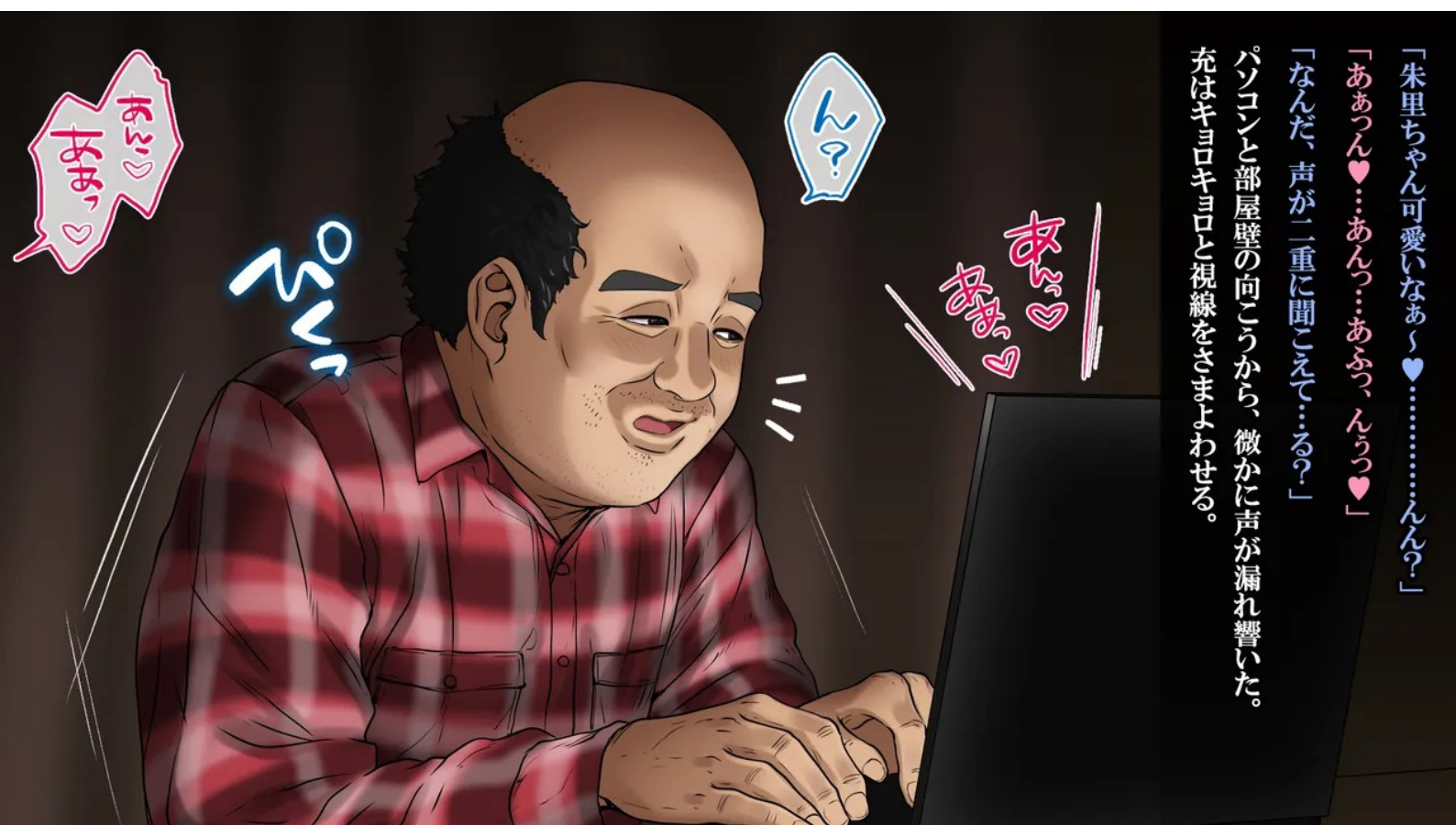
「ああっ♡はあっ、はあんっ♡」

「朱里ちゃん可愛いなあ〜♥……………んん?」

「あつん♥…あんっ…あふっ、んうっ♥」

「なんだ、声が二重に聞こえて…る?」

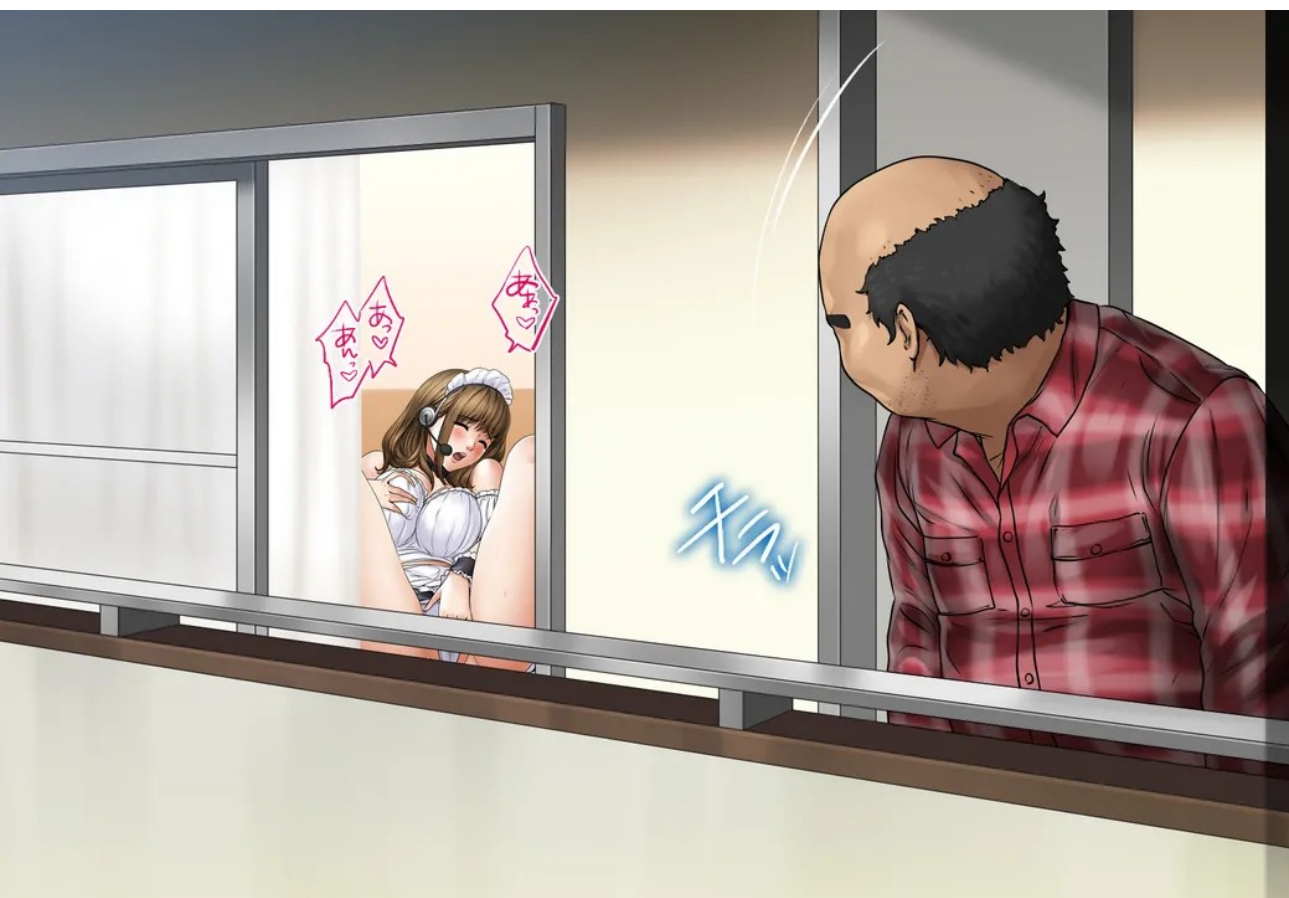
パソコンと部屋壁の向こうから、微かに声が漏れ響いた。
充はキヨロキヨロと視線をさまよわせる。



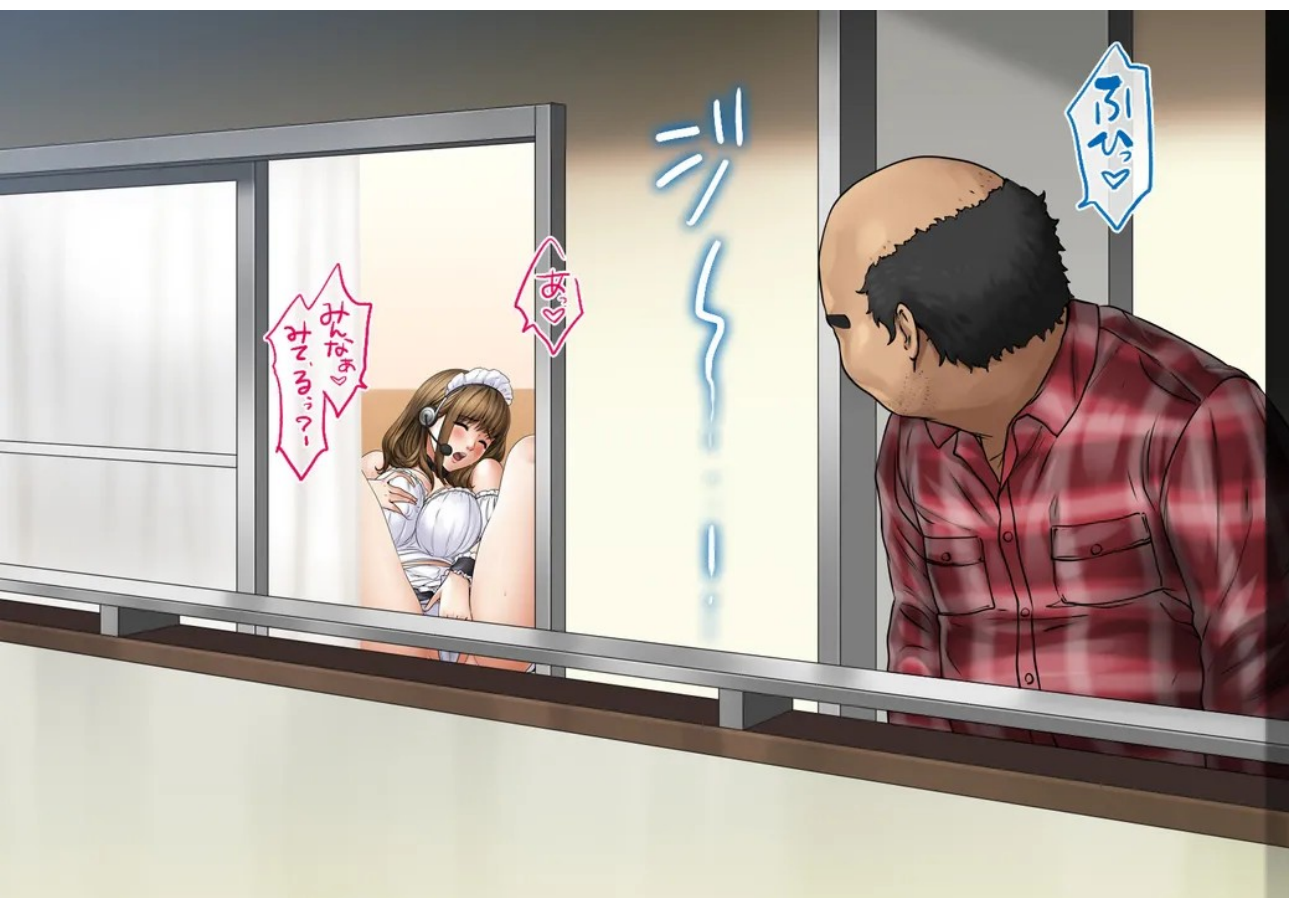


朱里はカメラを気にせず、あそこをぐちゅぐちゅとかきまわし、色っぽい甘い声をあげた。





充はベランダから隣の部屋を覗き込んだ。
するとそこには、画面の向こうにいるはずの朱里の姿が……
「朱里ちゃん……! はあはあはあ……」
これは神が与えてくれたチャンスなのか。」
充はゴクリと息を呑む。



「鍵もかかってない。……ふひっ、ふひひひ……」
じゅるりと流れる涎を拭い、充はペランダの柵に足をかけた。
ミシッと音になるも、オナニーに夢中になっている朱里が
気づく様子はなかった。



「あう……♡はあつ……はあつ……
あつ、すこ……いき、そつ……♡♡」

絶頂感が込み上がり、足先がピンと立ち上がる。
ビクンと身体が震え、息が小刻みに変化していく。

「あつ……ああつ……あつあつ……ああつ……イクっ……」

「あつ…イクっ……んうっ……♡」

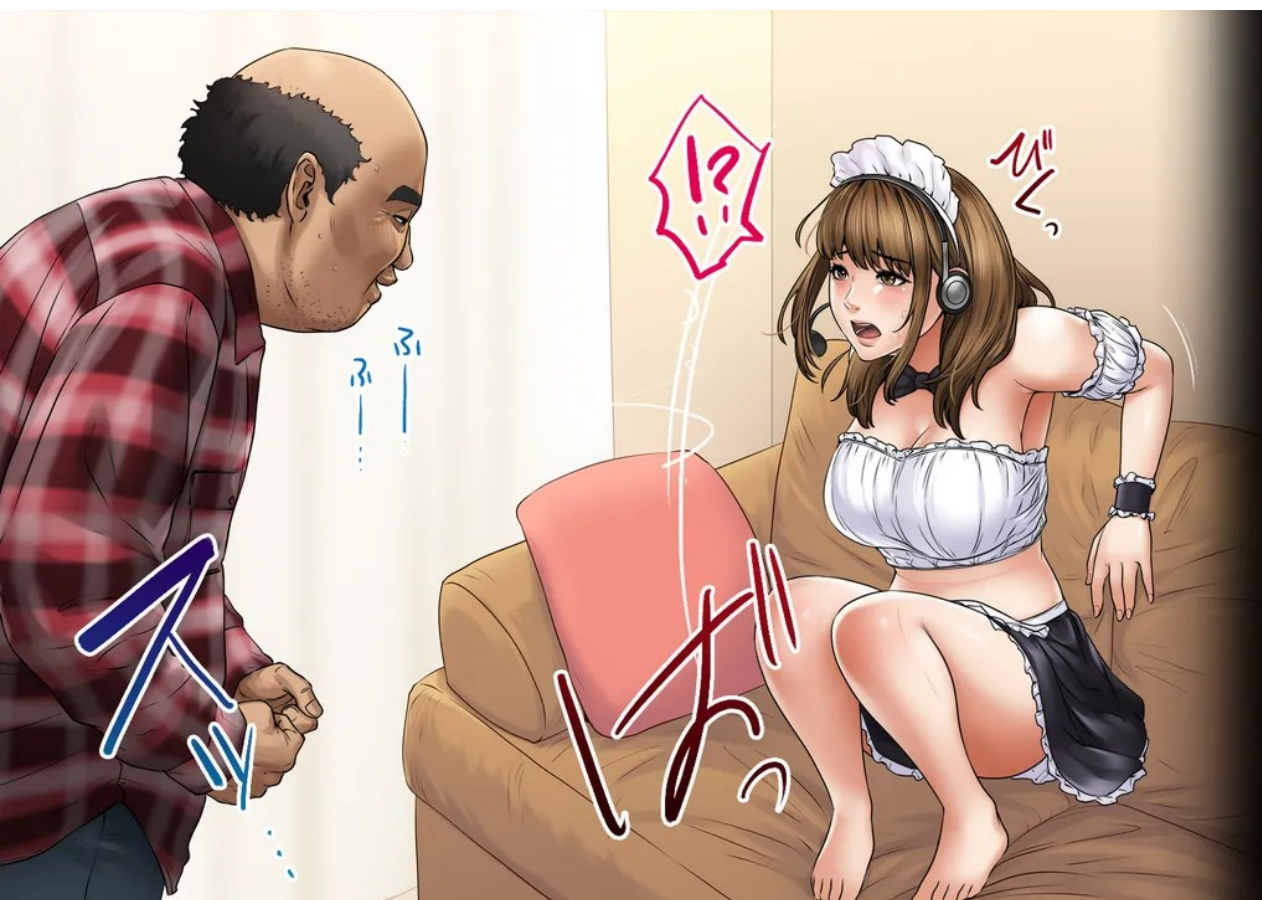
「はあっ……はあ……はあはあはあはあ……っ」

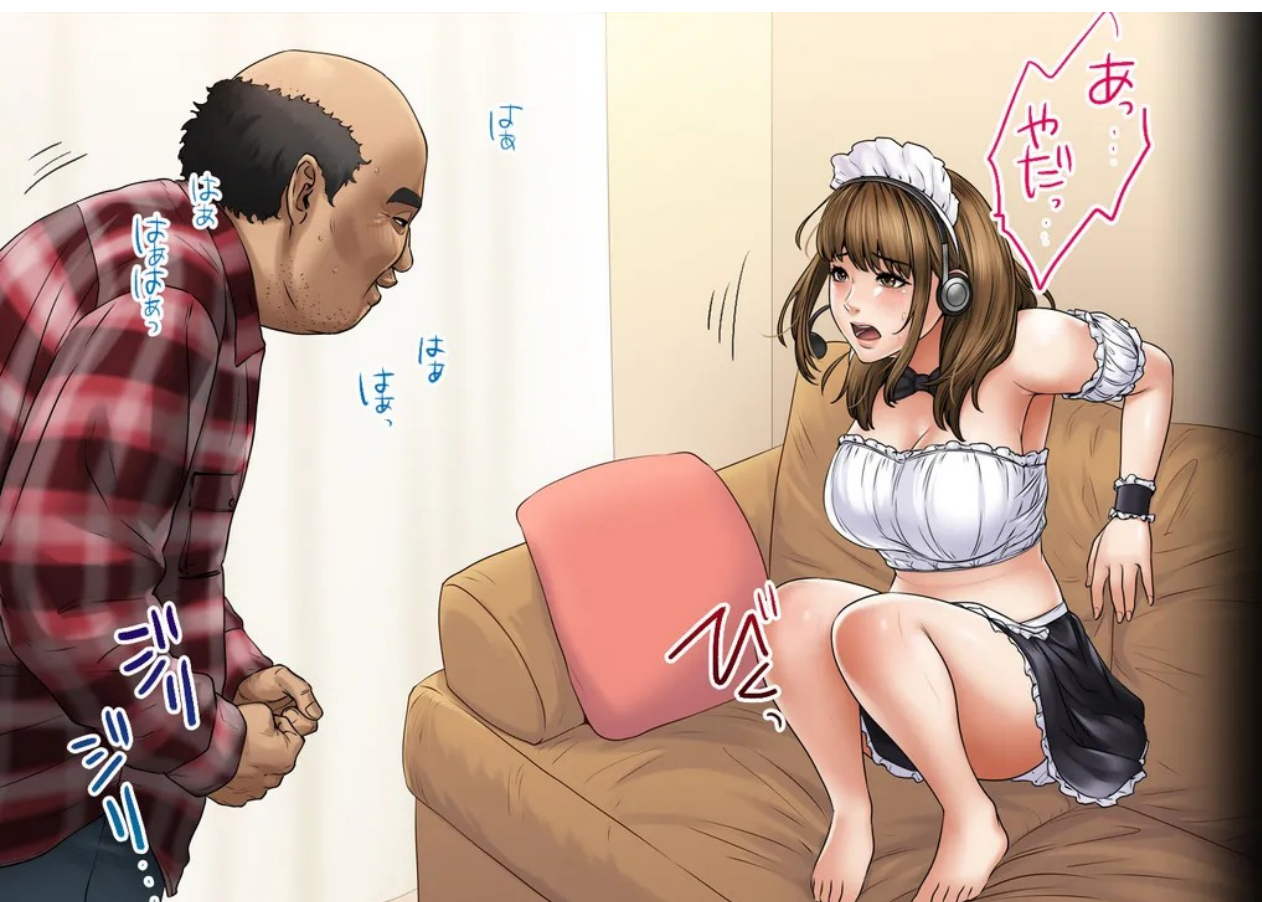
朱里がイきかけたその時、どこからか別の荒い息遣いが
部屋の中に聴こえてきた。



「ぎゃああつ！」

突如現れた充に、朱里は悲鳴を上げた。
ソファの端に慌てて身を引くも、それ以上下がれない。
充はじわじわと朱里との距離を詰める。

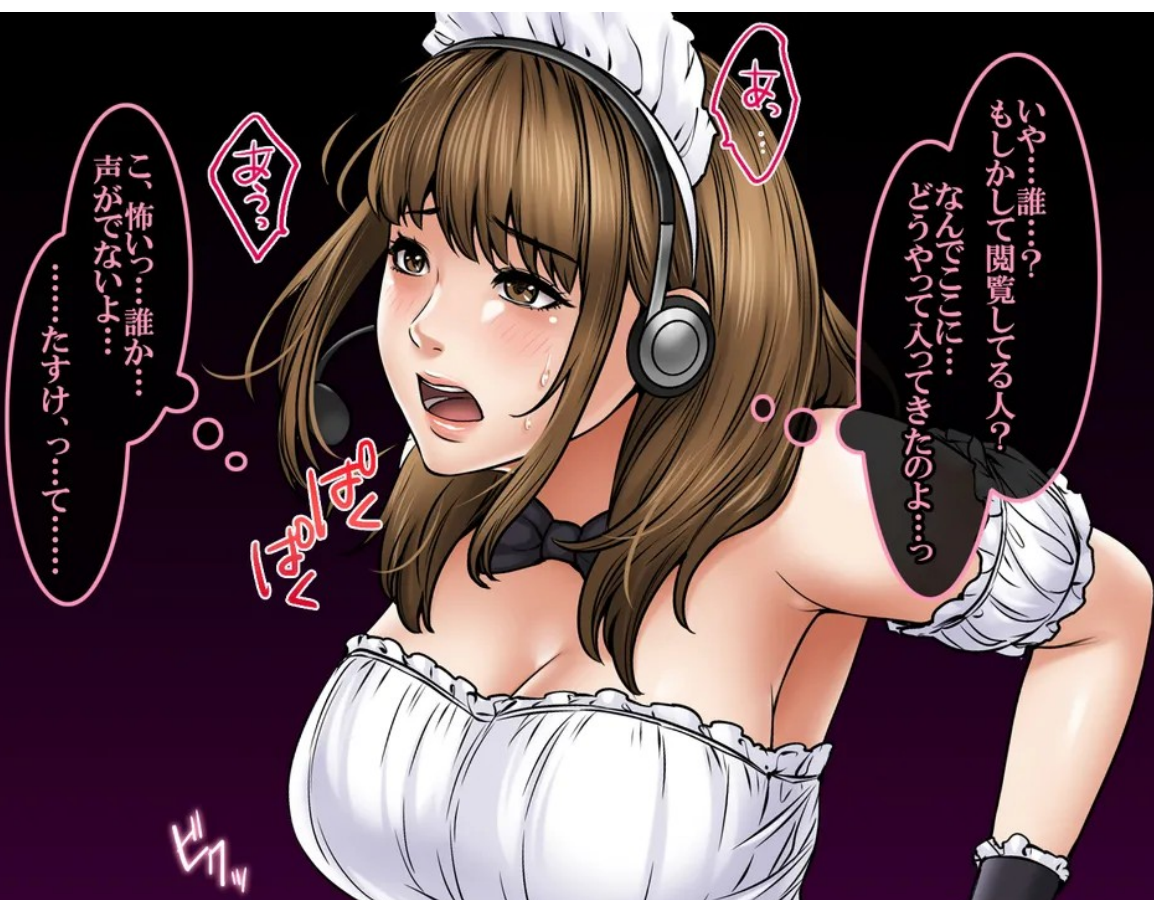




「あなっ…あなた誰ですか…」
「本物の朱里ちゃんだ♥…ふひっ、いつも観てるよ。」
ズイツ…ズイツ…と充は朱里に歩み寄る。
朱里は恐怖で言葉が喉に詰まってしまった。

「あっ………やあ、…こないで……」

必死に言葉を絞り出そうとするも、途切れ途切れになつてうまく発することができない。



いや…誰…？
もしかして閲覧してる人？
なんでここに…
どうやって入ってきたのよ…っ

あ…

あう…

こ、怖いっ…誰か…
声がでないよ…

……たすけ、っ…て……

ははは

んん

「はあはあっ…朱里ちゃんっ♥朱里ちゃん♥」

充は虚ろな目でありふり構わずに朱里へ近づく。
頬に脂汗をにじませ、下品な笑みを浮かべる。



「ちゅ……んぶっ……」

「朱里ちゃん♡んうゝ…ちゅうー♡」

無理やり顔を引き寄せて口づけをする。

舌をべろりと差し込み、歯並びをなぞるように舌を動かす。

朱里は思わず嗚咽を漏らした。



「ほら、朱里ちゃんも舌出して…」
「うふっ……うふっ…」

舌を絡め合い、どちらともわからない唾液が伝う。
ぺちやくちゃ部屋中に音が響き、朱里は必死に抵抗しようと
充の体を押しのけてみるも、無駄に終わる。





「朱里ちゃんの唇柔らかいね♥はあっ…んうっ…♥♥」
「おえっ……（気持ち悪いっ…気持ち悪いよ……）」
「んちゅっ、んちゅっ♥おいしいな、朱里ちゃんの唾液♥」
「あぐっ……や、やめて……」

朱里の身体から力が抜けていく。

「おっ、こっちはもういっぴいだね。
それじゃあ、次にしようか。」

最後に舌同士を舐め合い、充は顔を離した。
そしてそのまま朱里の体を後ろに突き飛ばして
ソファに押し倒す。





「さっきはイけなかったもんね。
今度は俺が朱里ちゃんのオナニーを手伝ってあげるね♥」
「はうっ……いやっ……」

朱里は足を閉じようとしたが、抑え込まれた。
そのまま充の指があそこへと伸ばされる。

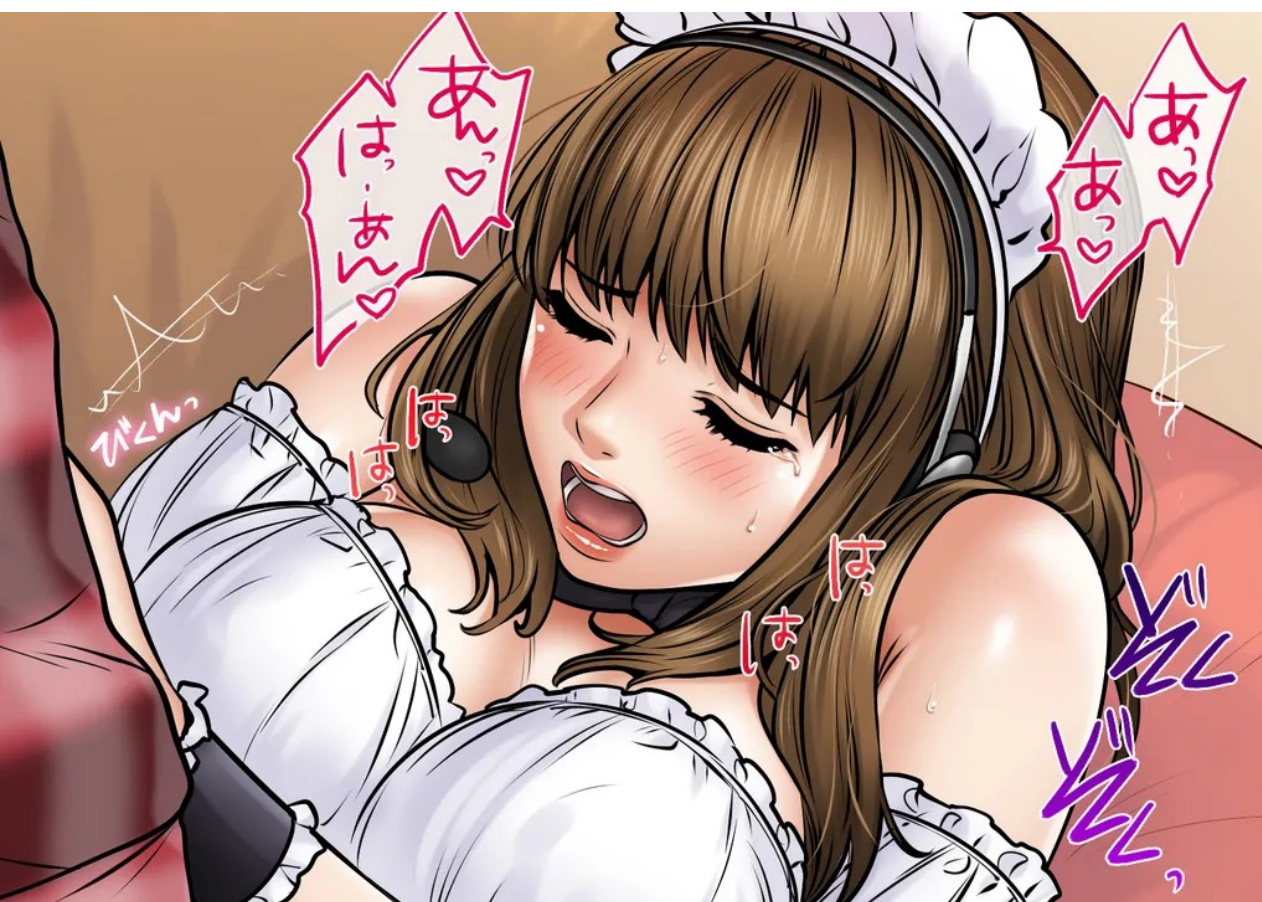
「すごい濡れてるね。」

「ひびく…」

「朱里ちゃんの弱い所知ってるよ。」

そう言つてパンツ越しにクリトリスをこすりあげる。
襲ってくる刺激に抵抗する手から力が抜けた。





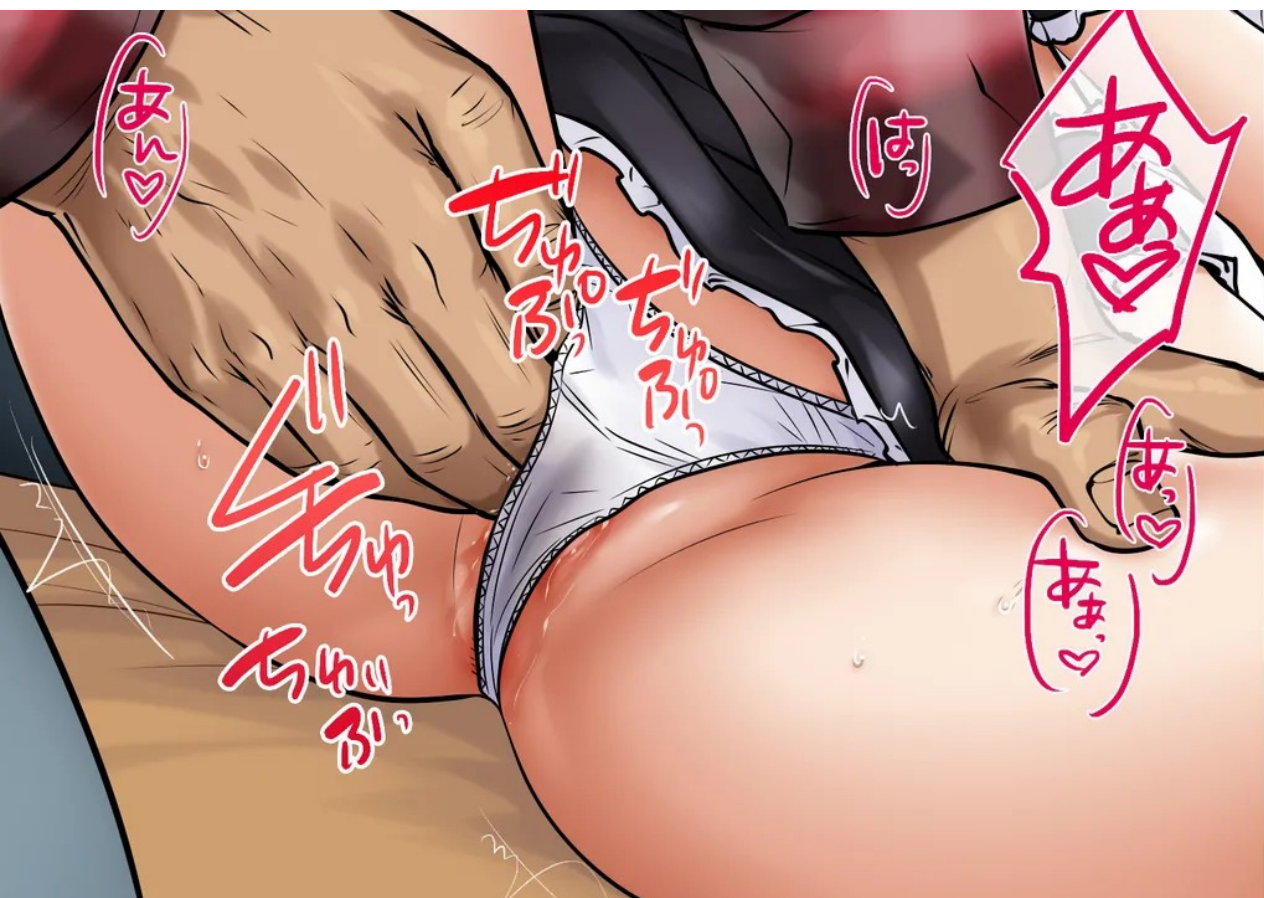
「あつ…あんっ…いやあああ……だ、めえ…」

充の服を掴み、必死に抵抗するも虚しく
弱い所を責められて声がどんどん甘く甲高いものになっていく。

「おまんこヌルヌルで指がずっぽり入っていくよ。」

朱里の膣内を探るように指をうねり動かす。

時折いいポイントを刺激されて、朱里が声を上げると
充はそこを重点的に責め上げた。





「あんっ…そこ、だめ… 私の、弱い所ばかりい…んんっ…」
「良いんだよね？だつてすごくエッチな汁が溢れてるもんね。」
あそこをいじるたびに水音が増し、
充の指に朱里の愛液が大量に絡みつく。



「んうっ…や、やだ…(いつちゃう…っ、こんな男に…)」
「ナカの締めまりがよくなってきた。いきそうなんだね、いいよ。」
指の動きを激しくして、朱里の絶頂を促す。
朱里は高揚感から身体に力が入り、小さく呼吸をした。



朱里は身体をビクリとしならせて絶頂を迎えた。

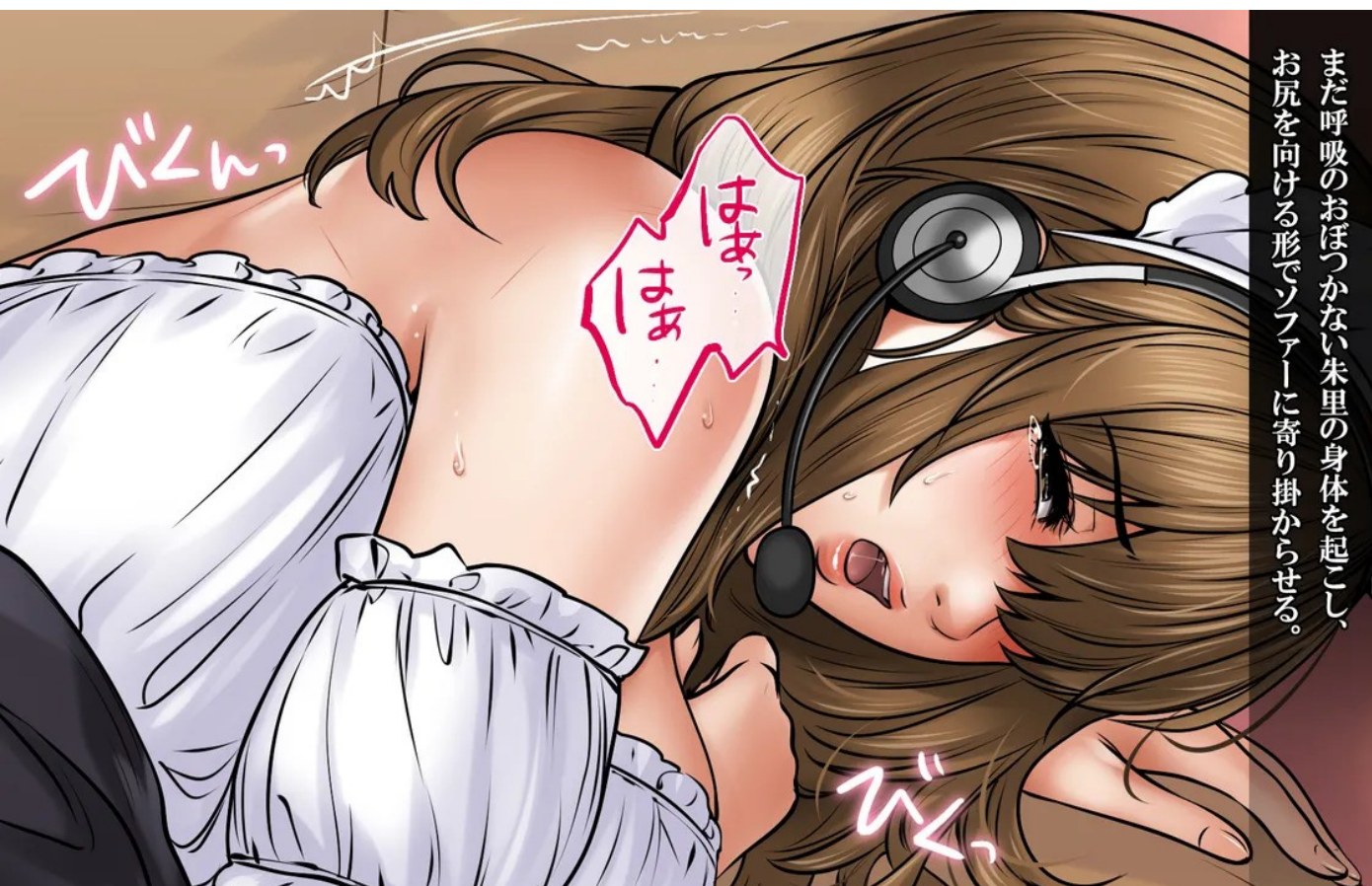
「……あああ♡♡♡」

「はあっ…はあ、はあ……」

朱里は息を整える。

「朱里ちゃん、いった時の顔かわいい♥」

まだ呼吸のおぼつかない朱里の身体を起こし、
お尻を向ける形でソファに寄り掛からせる。



「おほっ♥いい眺め。」

「へい……も、う……やめて、よう……」

朱里のおしりを広げ、じつくりと舐めまわすように見つめる。
パンツに染みた愛液が、うっすらとあそこが透けていた。



「くんくん…朱里ちゃんの匂い♥」

「へんだ、いつ……」

パンツ越しに顔をうずめ、思い切りくんくと匂いを嗅ぐ。
充はペロリと舌を這わせ、朱里の味を味わう。

「はあはあはあっ…パンツも脱いじゃおうか」



「あつ、ちよつ……ソコ舐めちゃ、あああつ…」

お尻の穴を直に舐められ、朱里は身を震わせた。
身をよじろうとするも、お尻をがっちりつかまれて
身動き取れない状態にされる。

「うそつ…汚いから、…本当にだめえつ…ああんっ♡」





「はあっ…朱里ちゃんの美味しいよおおおっ♡♡」
「あっ、あんっ…あひい…♡やだ、やだあ…おかひく、なる…」
充の舌の動きに、朱里の頭が麻痺していくようだった。
快感が全身をめぐる、あそこからは愛液が止まることなく
溢れ出していく。

「ひゅっ……も、やめ……てえ……あああああっっ！」

舌先で奥までグリグリされると、朱里の身体がはねる。

「気持ちいい？ 気持ちいいんでしょ？」

「あひいっん……♡♡」



「ふうー……ふうー……」

快感に腰が抜け、睨むことしかできない朱里。

「ほらほら、もつと見えるようにしてっ。
自分で広げて見せてよ。」

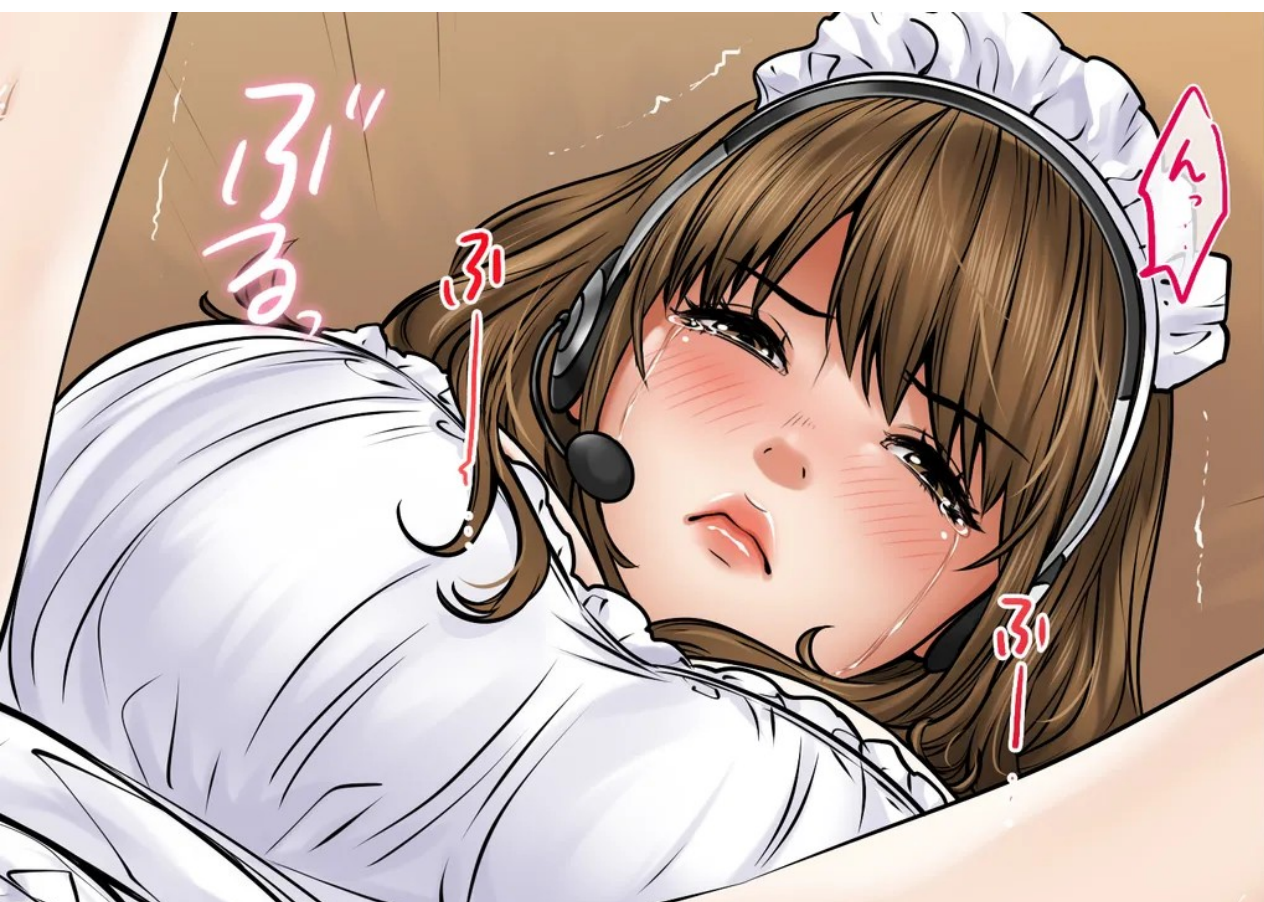


「んっ、んん……う……」

朱里は震える手であそこを広げて見せる。
膣内の奥がヒクヒクと脈打っているのがよく見えた。

「朱里ちゃんのおまんこ♡ヒダが薄くて綺麗なピンク色だね
遊んでると思ってたけど、そんなことないんだね♡♡」





「ふう……(私、なんで自分から……)」
充への恐怖と快楽からの意識麻痺が相まって、
朱里は自分の行動に制御が利かなくなっていた。
「……んっ……(こんな男、に……ああ、イきたい……私……)」
思考がグルグル脳を犯していく。

「んうつ…あふあつ…」



「あふっ…ひやあっ、ん…♡クリはだめえっ…♡♡」
「んふっ♡いつもクリちゃんいじるぐらい好きなんですよ。」
充がクリトリスを集中的に舐めると、朱里は身体を小さく
ビクつかせて、軽く何度もイッていた。

「あつーちよと……!!」

いつの間にか充はズボンを脱ぎ捨て、朱里のあそこに
勃起したちんぽを擦りつけた。

「すごいぬるぬるで気持ちいいよ♥」





「あつ、あんっ…♡
(ふわあつ…おちんちん擦れて…だめえ…♡)」
クリトリスを狙ったかのようにチンポを擦りつけられ、
朱里は甘い声をあげる。
「そっお…♡ああっ、ひんっ♡♡♡」

「はあはあはあはあはあはあ……」

擦りつける速度は更に増し、充の息遣いもどんどん荒くなって射精感が高まっていく。





「ふっ…危ない、危ない。もうちょっとで出ちやいそうだったよ。
出すときは朱里ちゃんのナカつて決めてるのに…」

「ちよっと、何勝手な事言ってるのよ……っ！」

ピタリと動きを止められ、朱里は一瞬喪失感に襲われた。
しかし充の言葉にすぐ我を取り戻す。



「これも邪魔だから取っちゃおうか♡」

「あっ……やあっ……」

「朱里ちゃんの乳首エロいねえ♡♡」

鼻息が乳首をかすめ、朱里はビクッと身体を震わせる。

「こんなに乳首ピンピンにして、愛撫で感じてくれたんだね。」
「ちがつ…」

「隠さなくても大丈夫だよ。」

朱里ちゃんの弱い所は全部知ってるからね。」

『全部知ってる』という充の言葉に悪寒が走った。

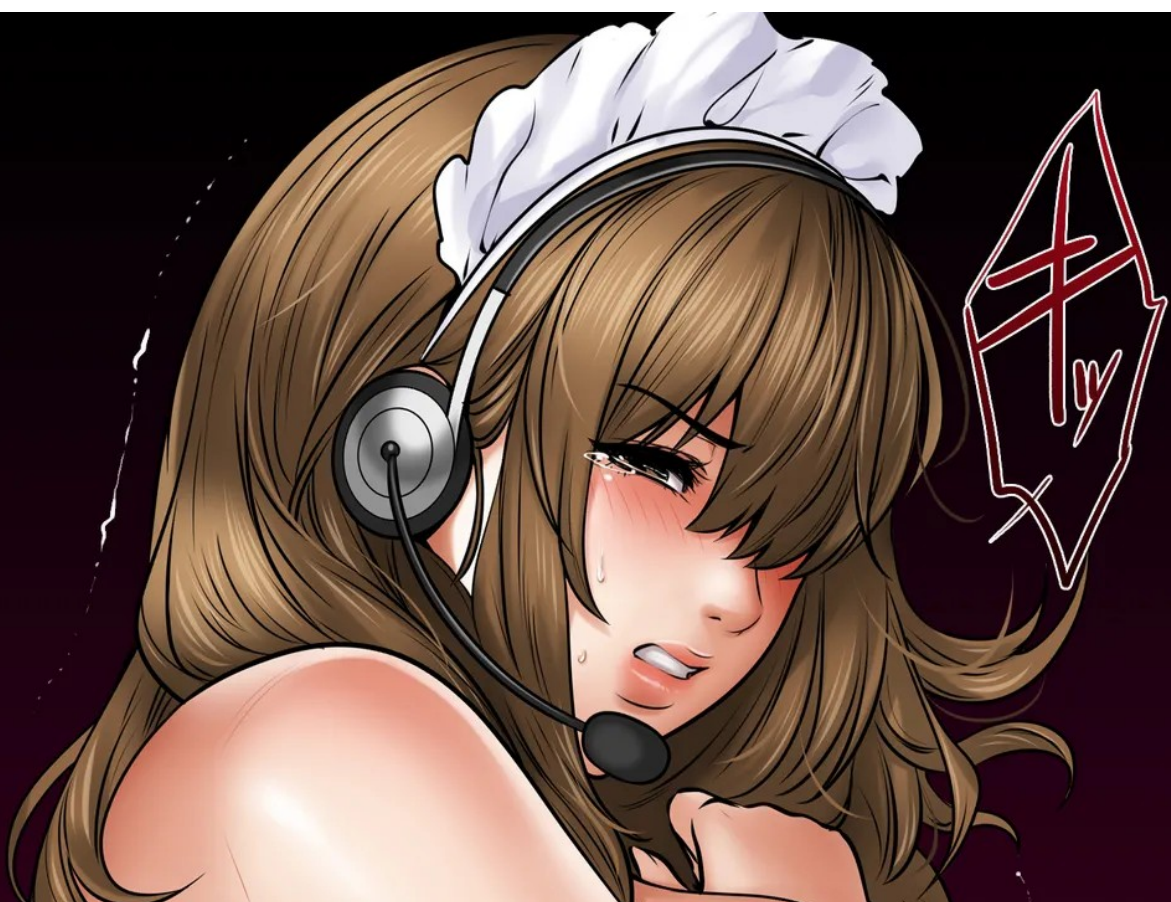




「毎日、毎日、毎日……朱里ちゃんを見てたんだから。」
声色がうつすらと変わったのに気づいた。
「いつもはみんなの朱里ちゃんだけど……ぐひっ……
きよ、今日は俺だけのモノだよ♡」

「ふざけ、ないでっ！
あんたみたいなキモブタのモノになるわけないでしょ…」
必死に声を搾りだし、キッと睨みつける。

「も…出て行って、よ…！」



「ダメだよ。朱里ちゃんはそんな汚い言葉は吐かないんだ。
悪いお口は塞いじやおうね♥」

「んちゅっ……!？」

強引に口を塞ぎ、喉の奥まで舌をにゅるりと差し入れると
朱里は思わずせき込んだ。



「大丈夫、俺が朱里ちゃんにひどい事するわけないでしょ？
エッチな可愛い朱里ちゃんに戻すために、ちよおーとだけ
躰をし直してあげるからね♡」

充は軽く放心した朱里をソファーに寝かせた。
そのままちんぽに愛液を絡める。

「いつもローターとかバイブばかりだったけど
今日は本物のおちんちんが挿っちゃうよ♥」

「はあっ……ほ、え…？」





「やだっ、あんっ♡…抜いてええええ…っ!」
「いやいや、朱里ちゃんのおまんこが離してくれないよ。」
勢いよく腰を打ち付けると、激しい水音が部屋中に響き、
ソファァーがギンギンとベッドのように軋む。

「あんっ、あぁっ………!（やつ、イっちゃう……♡）」

あそここの奥を突き上げられ、朱里は昂る快感に
ゆつくりと腰が浮き上がってきた。

「はぁっ、あうっ……イ、イっく……んうっ……」





——ピタリッ……



「なんつ……で……(いきそうだったのに……)」

イけなかった物足りなさに、朱里は弱弱しい声をあげた。
感じていた快感の波が、ゆっくりと静まっていく。

「ぐふふ……これは嬖だからね。簡単にはイかせないよ。」

「ほら、また挿っていくよ♥

朱里ちゃんの弱点はどこかなあ〜？」

「んうっ……」

先ほどまでの激しさとは違い、

今度はゆっくりと朱里の膣内を探るように挿入していく。



「あひいっ…ん♡」

とある一か所にちんぽがこすれた瞬間、朱里が今までにない
声をあげて、充はにやりと笑みを浮かべた。





「ユコがいいんだね？」
「あひつ、あああつ！ソコお…っ、だめっ！
(なにっ…さつきと違うっ…こんなのおかしくなるっ)」
感じる所を集中的に突き上げられ、すぐさま感度があがり、
頭の中がグワングワンと麻痺していく

「あっ、すいっおっ……あうっ……いっく……」

今まで感じたこともない刺激に、朱里は声をあげまくった。
呼吸が小刻みになり、絶頂感が一気に押し寄せてくる





—ピタッ

「あう……(またあ……)」
「ふひっ…何か言いたそうだね？」

朱里が小さく声を漏らすと、充は汚い笑みを浮かべる。
挿入されたままのちんぽを、朱里のあそこがキュッと締め付ける。





「いつもライブでやってるみたいにおねだりしてみてください。」
「そんなこと……」
「できるまでイかせてあげないよ？」
充の言葉に朱里がグッと言葉を呑み込んだ。



「ううっ…(イきたい、イきたいあい…イキタイ、イキタイ…)」
イけそうでイけない生殺しの状態に、
朱里の脳内は快感を強く求めている。

はぁ…
はぁ…

はぁ…
はぁ…
♡

ぐっ



「お願いしますっ…おちんぽでイかせて♡」

我慢できなくなった朱里が大声をあげる。

おちんぽで
イかせて♡

びと

はぁ

はぁ♡♡♡

はぁ♡♡♡

「ふひっ…いつもの朱里ちゃんに戻ってきたね。」

充は先ほど見つけた朱里の敏感ポイントを刺激する。

「はあっ…あっあ…そこ…グリッてされたら
頭おかひく、なっひゃう…♥♥♥」

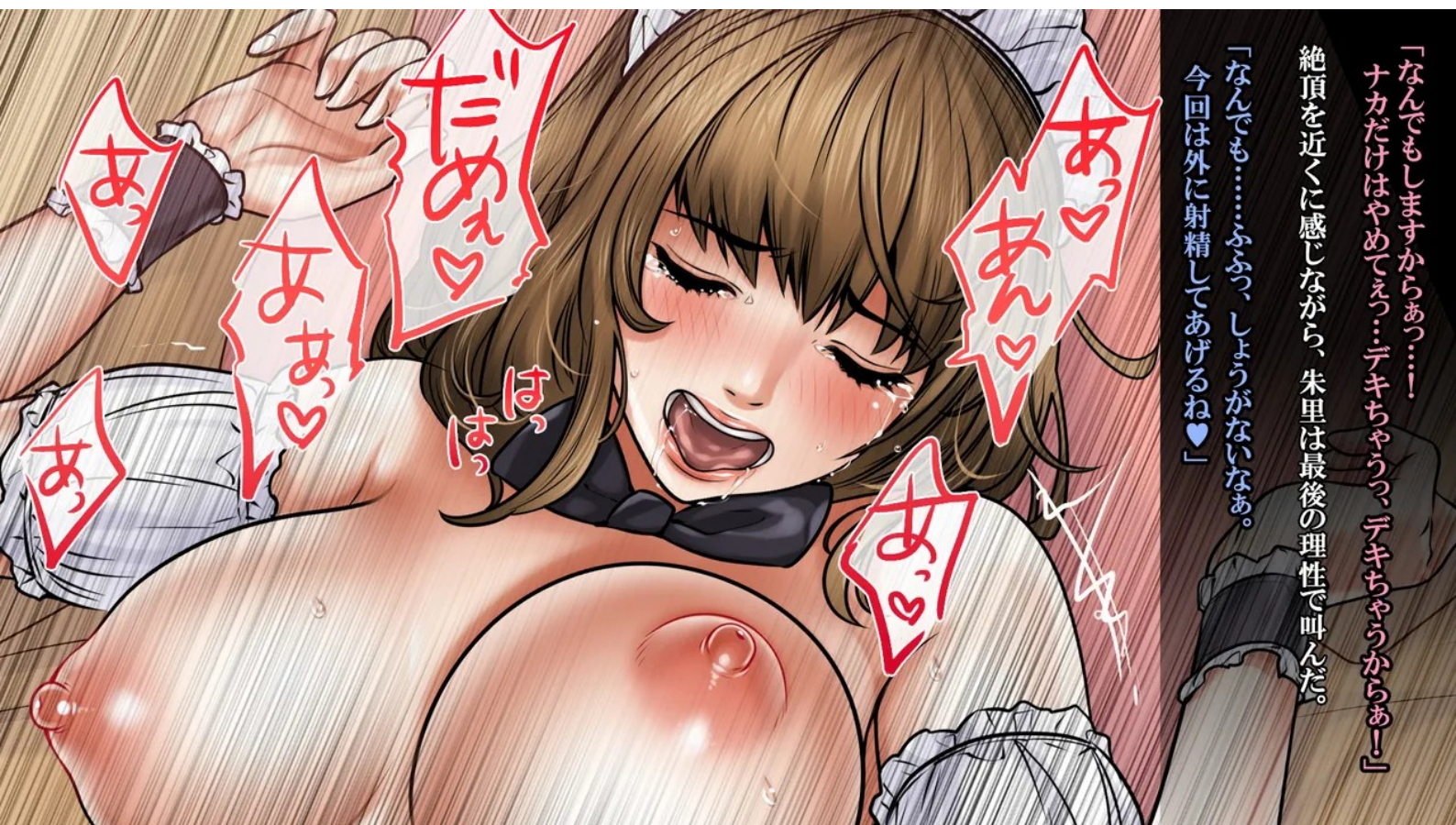


「あつ、あんっ♡いっ♡ソコオ♡
気持ち、いっ♡んんうっ♡あああっ♡♡♡」





「はあはあはあはあつ…俺も、そろそろ…いくよつ…」
「あんつ…あんあん♥な、ナカは…だめえ…つ…」
「ええ…ナカに思いつきりビュッビュッしたいよ。」
「お願いっ、します…う…」



「なんでもしますからあつ……！
ナカだけはやめてえつ……デキちゃうつ、デキちゃうからあ！」
絶頂を近くに感じながら、朱里は最後の理性で叫んだ。
「なんでも……ふふつ、しょうがないなあ。
今回は外に射精してあげるね♥」

「はあっ…はあはあっ…デる…射精るよっ…!」

「あんあんああんっ♡イク、イクイクイクっ♡♡♡」

高速ピストンで二人の快感が上がっていく。

——パンパンパンッ、ジューッジューッジューッ…ズンズンズン





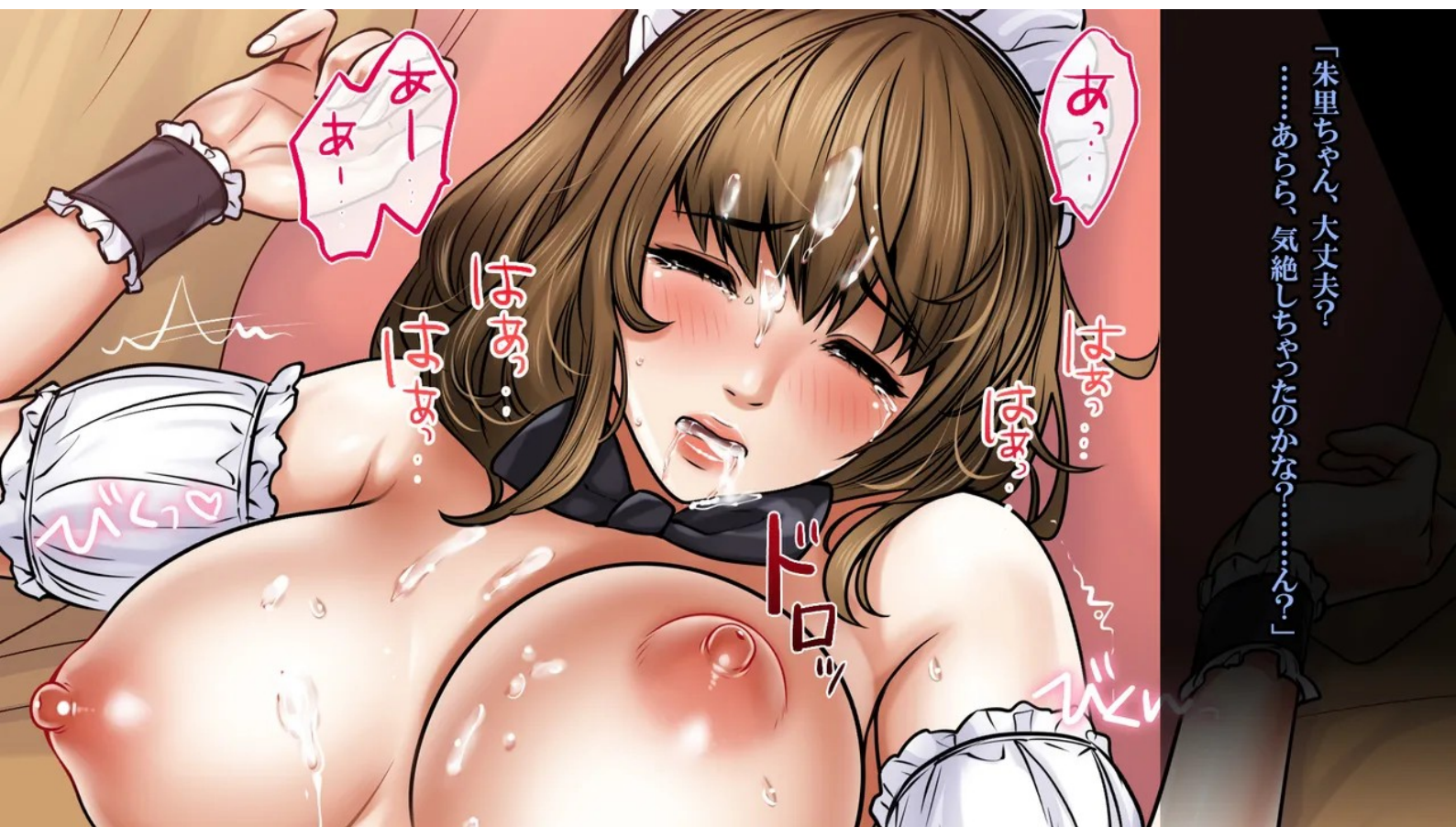
——ドコッ

「あああああああ♡」

「はあっ…はあ…」
「ふー…ふー…」

待ち望んだ最高の絶頂を迎え、朱里はそのまま
軽く意識を飛ばしてしまった。





「朱里ちゃん、大丈夫？
……あらら、気絶しちゃったのかな？……ん？」



鉄人45号：誰だ？この男？
ピン介：朱里ちゃん尻エロすぎ
カゲロウ：これ運営的に大丈夫なのかな？
KinKin：なんだこれ？
鉄人45号：朱里ちゃん大丈夫なの？
ぶっさん：もっとおっぱい責めろ！
部屋と私：女の子エロ過ぎでしょう
You：これってレイプだろ？
学徒の拳：投げ銭なしでここまでやってくれるのか？
黒りんご：めっちゃめっちゃ抜ける
下郎マン：絆創膏はつけたままがよかったけどな
イカリ：男精子すぎだろ
宗男：お 男気が付いたぞ
寺さん：男ちんこ隠せよな
ボブ：これから3Pとかあるかな？

充はライブチャットが継続していることに気が付いた。
今まで以上の閲覧者に一部始終放送されていたのを悟る。



鉄人45号：誰だ？この男？
ピン介：朱里ちゃん尻エロすぎ
カゲロウ：これ運営的に大丈夫なのかな？
KinKin：なんだこれ？
鉄人45号：朱里ちゃん大丈夫なの？
ぶっさん：もっとおっぱい責めろ！
部屋と私：女の子エロ過ぎでしょう
You：これってレイプだろ？
学徒の拳：投げ銭なしでここまでやってくれるのか？
黒りんご：めっちゃめっちゃ抜ける
下郎マン：絆創膏はつけたままがよかったけどな
イカリ：男精子ですぎだろ
宗男：お 男気が付いたぞ
寺さん：男ちんこ隠せよな
ボブ：これから3Pとかあるかな？

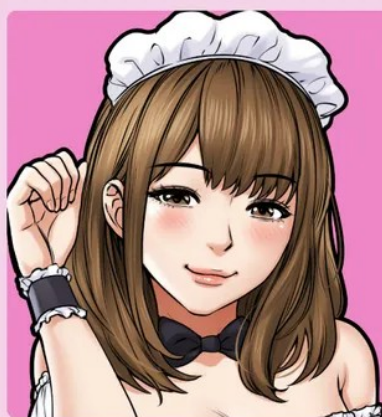
「朱里ちゃん、閲覧者が増えてよかったね。」
「は……ふ……」
朱里はほんやりとした意識の中で返事もどきをする。

マルチ

37人チャット中 306人のぞき中



「それじゃあ、みなさん…
また朱里ちゃんの配信をよろしくお願いしますね。…ふひっ」
その言葉を最後に、配信画面がブツリと消えた……



氏名
KURIHARA AKARI
栗谷 朱里

誕生日 7/5

BWH 86/57/88

バストカップ E

血液型 AB

職業 配信者

性格
明るく天真爛漫なタイプ。勉強など苦手なものからはすぐに逃げたくなって、なかなか続かない。お金(コイン)にめづる。寄ってくる男は全員金づるだと思っている。

シチュエーション

学校卒業後、ライフチャットレディとして荒稼ぎをしていた。最近儲けたお金で実家から一人暮らしへ転移を決ませる。引っ越して初のライフ中、壁が薄かったために隣の部屋で朱里のライフをみていた充が朱里に気づく。ベランダからのぞくと部屋の鍵はかかっておらず、充はチャンスと思い部屋へ侵入。当然の乱入に朱里は頭が追いつかず、ライフを配信したまま無理やり犯されてしまう。終わったころには閲覧者が今まで以上に増えていた…

寸止めで焦らし、自ら懇願するよう仕向けられ、絶頂したい朱里は無我夢中でちんぽを求める♡♡

一人称 私

二人称 貴方

家族構成
父親・母親
姉・妹1・妹2

好きなもの
ライフチャット
ミルクレーフ
羽振りのいい人 (お金持ち)
オナニー♡

嫌いなもの
労働
サラダスティック
自己中人
喉マンコ♡



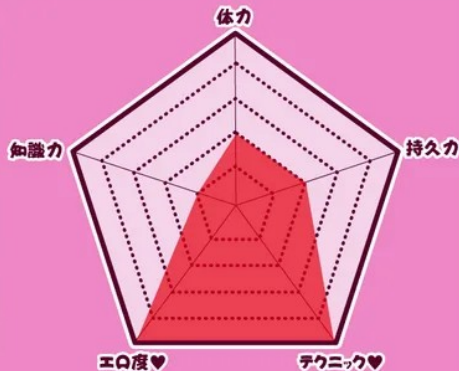
ステータス

【体力】
平気や下回り。部屋で引きこもっていることの方が多いため体力は低く、日差しは苦手。運動も全然ダメだが、体は柔らかい。

【持久力】
体力と同じく持久力少なめ。オナニーも一回いっただらすぐ眠気に襲われるタイプで長時間えっついことはできない。

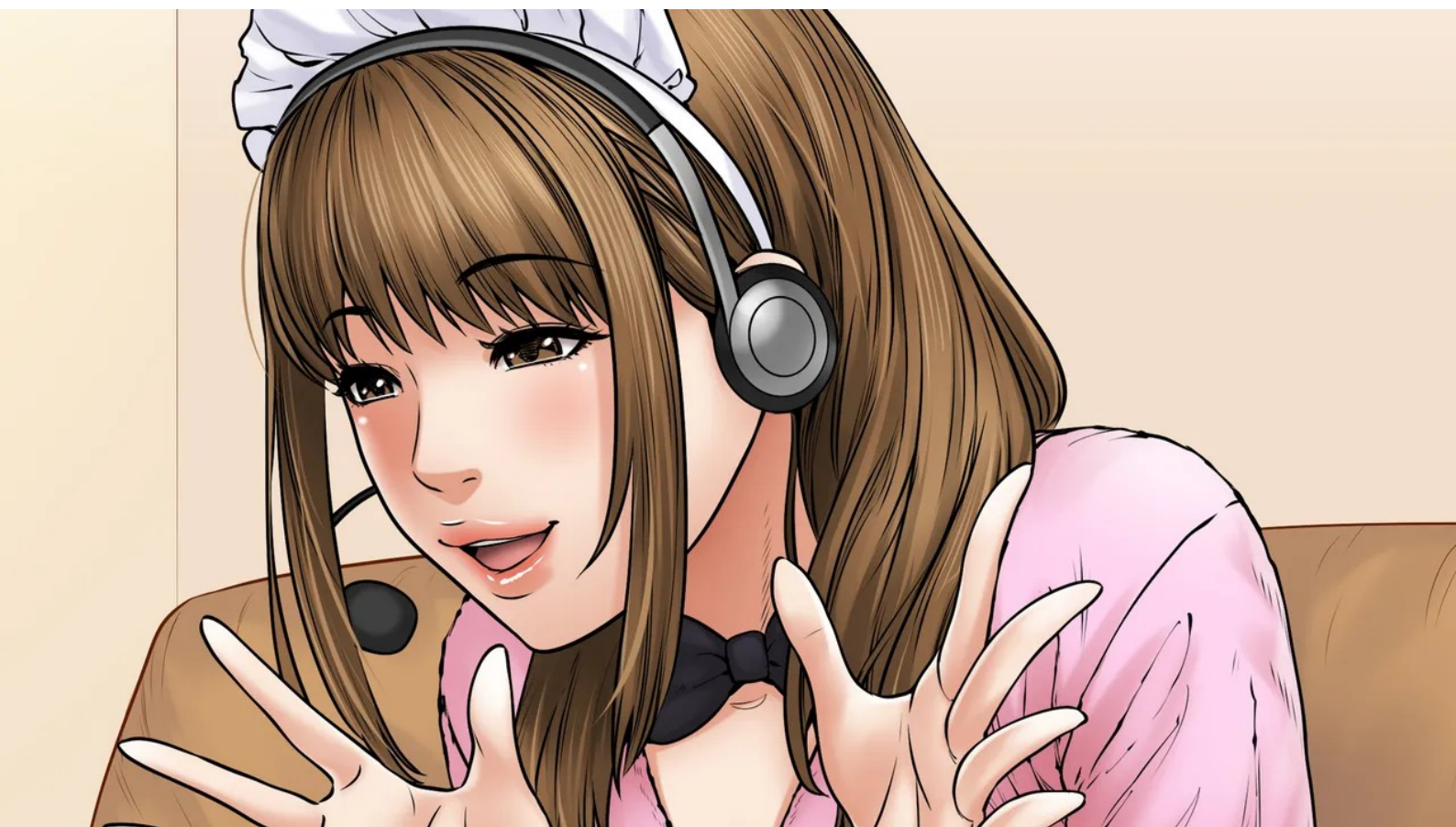
【知識力】
おバカ。学生時代も成績は下気味で、卒業も危ぶまれるほどだった。しかし、パソコンなどの知識はややある方。

【エロ度・テクニック♡】
顔のレベルは中ぐらいだが、とにかく仕草がエロく男を引き付ける魅力がある。エロいことは好きなので、エロの知識やテクニックは独学で勉強。ライフオナニーでお金を稼ぐのを覚えてからはより一掃エロく見える研究などしている♡









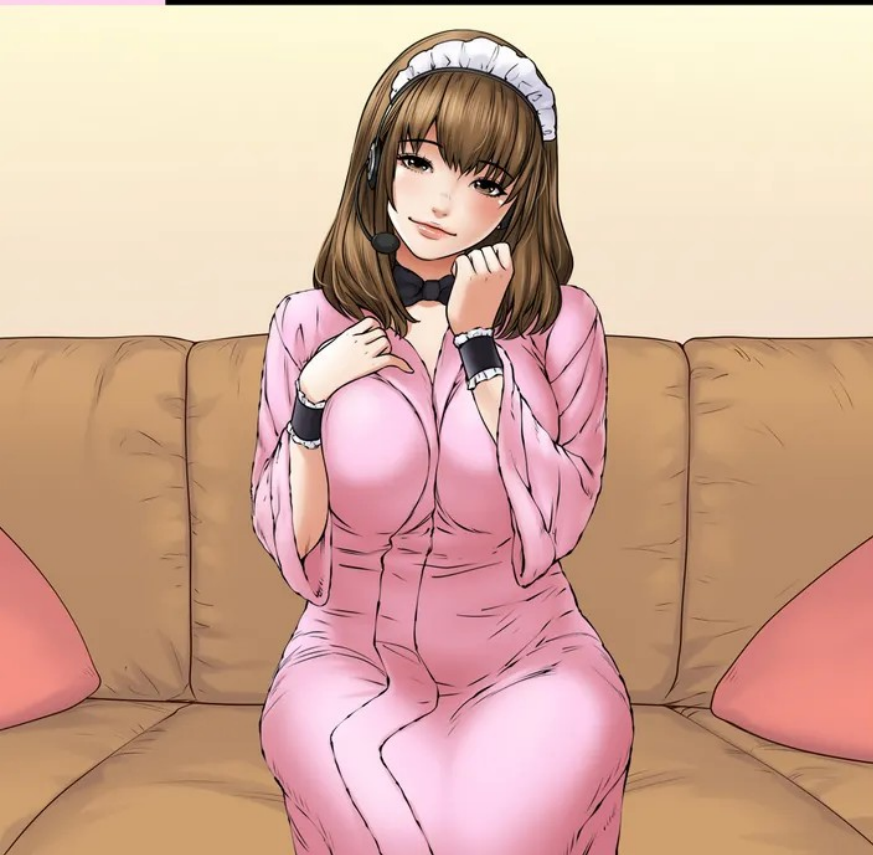






マルチ

2人チャット中 1人のぞき中



朱里：皆さんこんばんは！

朱里：朱里で～す

鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは

充：朱里ちゃん今日も可愛すぎる

マルチ

4人チャット中 3人のぞき中



朱里：皆さんこんばんは！

朱里：朱里で～す

鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは

充：朱里ちゃん今日も可愛すぎる

ピエトロ：早く脱げ

朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～

朱里：今日も頑張ります！

朱里：充さん！

いつもありがとうございます！

朱里：来てくれて嬉しい～

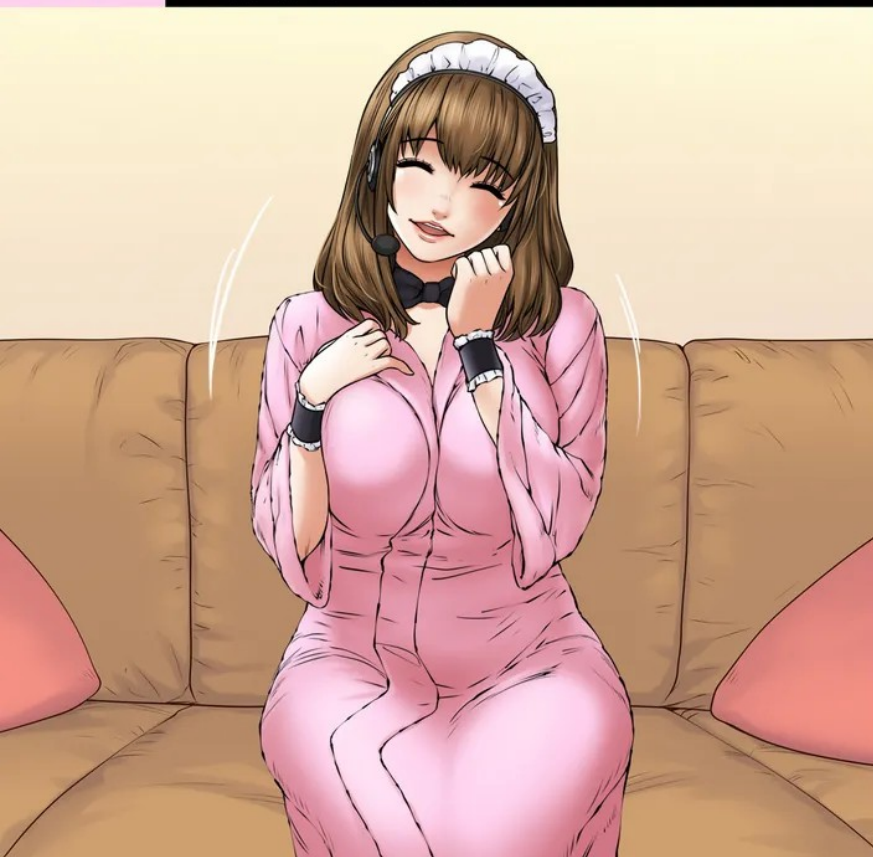
朱里：ピエトロさん初めまして～

朱里：えwいきなりですか～



マルチ

4人チャット中 3人のぞき中



朱里：皆さんこんばんは！

朱里：朱里で～す

鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは

充：朱里ちゃん今日も可愛すぎる

ピエトロ：早く脱げ

朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～

朱里：今日も頑張ります！

朱里：充さん！

いつもありがとうございます！

朱里：来てくれて嬉しい～

朱里：ピエトロさん初めまして～

朱里：えwいきなりですか～

充：朱里ちゃん今日はガウンなんだね？

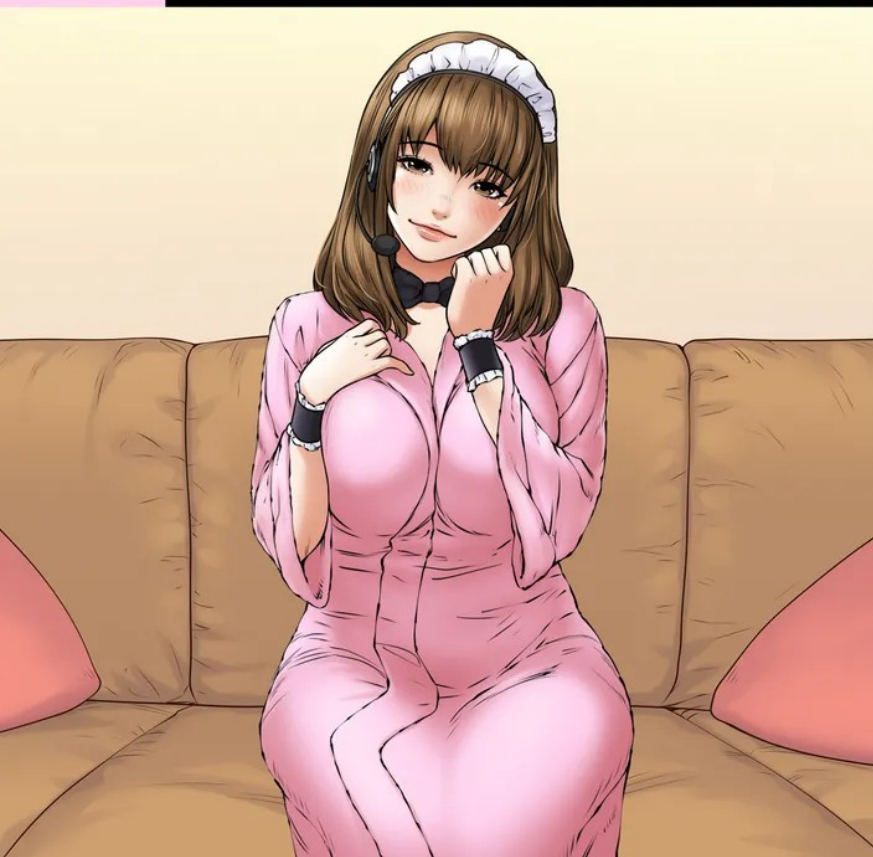
朱里：はいそうなんです！

朱里：この下にみんなが

喜びそうな衣装着けてます！

マルチ

4人チャット中 10人のぞき中



朱里：皆さんこんばんは！

朱里：朱里で～す

鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは

充：朱里ちゃん今日も可愛すぎる

ピエトロ：早く脱げ

朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～

朱里：今日も頑張ります！

朱里：充さん！

いつもありがとうございます！

朱里：来てくれて嬉しい～

朱里：ピエトロさん初めまして～

朱里：えwいきなりですか～

充：朱里ちゃん今日はガウンなんだね？

朱里：はいそうなんです！

朱里：この下にみんなが

喜びそうな衣装着けてます！

鉄人45号：なにそれ気になる！

充：朱里ちゃんは何着ても似合うから♪

ピエトロ：早く脱げ

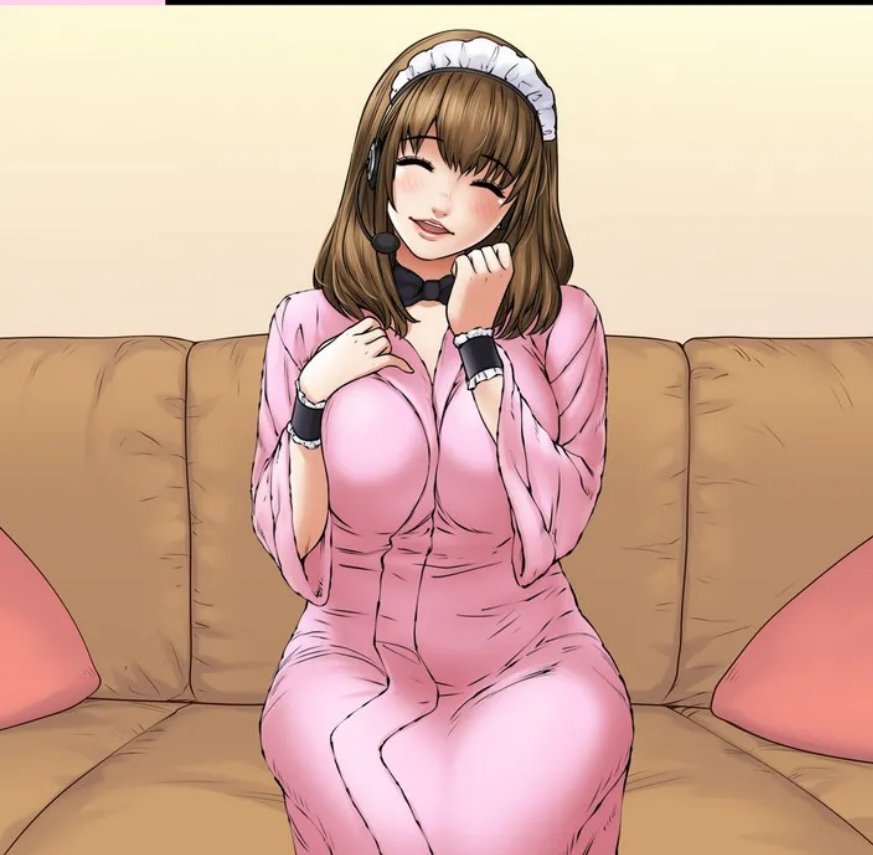
ピエトロ：早く脱げ

ピエトロ：早く脱げ



マルチ

4人チャット中 12人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？

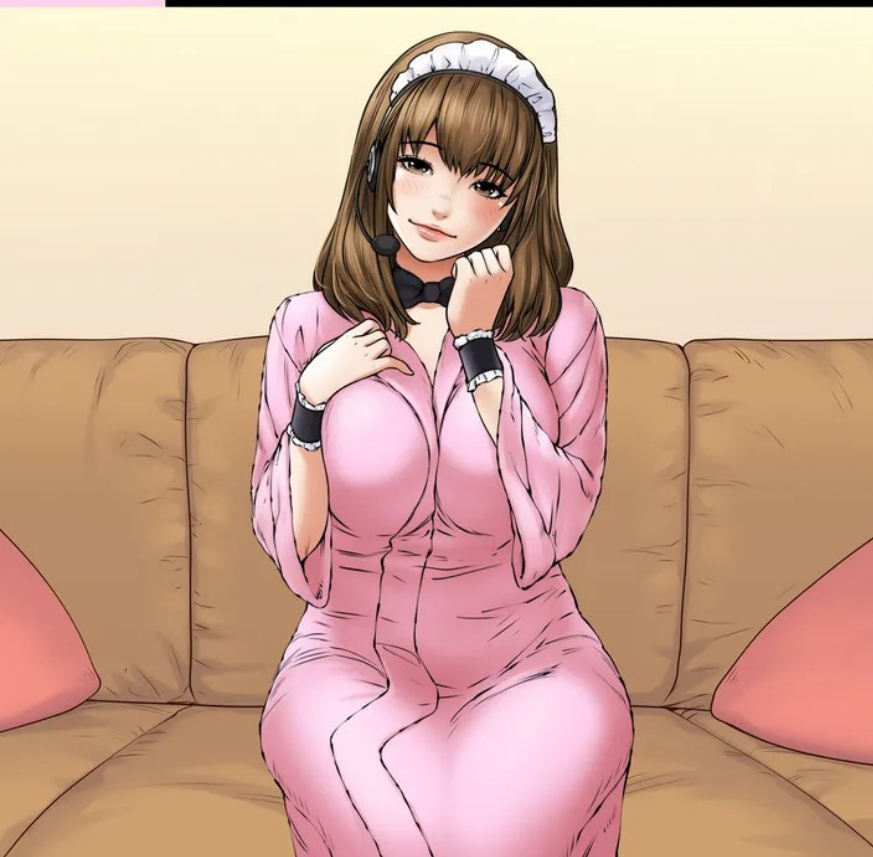
充：ガウン脱いで欲しいな

ビエトロ：だから早く脱げよ

朱里：みんな下が気になるみたいですね！

マルチ

4人チャット中 12人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？

充：ガウン脱いで欲しいな

ビエトロ：だから早く脱げよ

朱里：みんな下が気になるみたいですね！

朱里：それじゃあ皆さんから

朱里：1000コインいただいたら

脱いじゃいますよ～

充さんが1000コイン送りました。

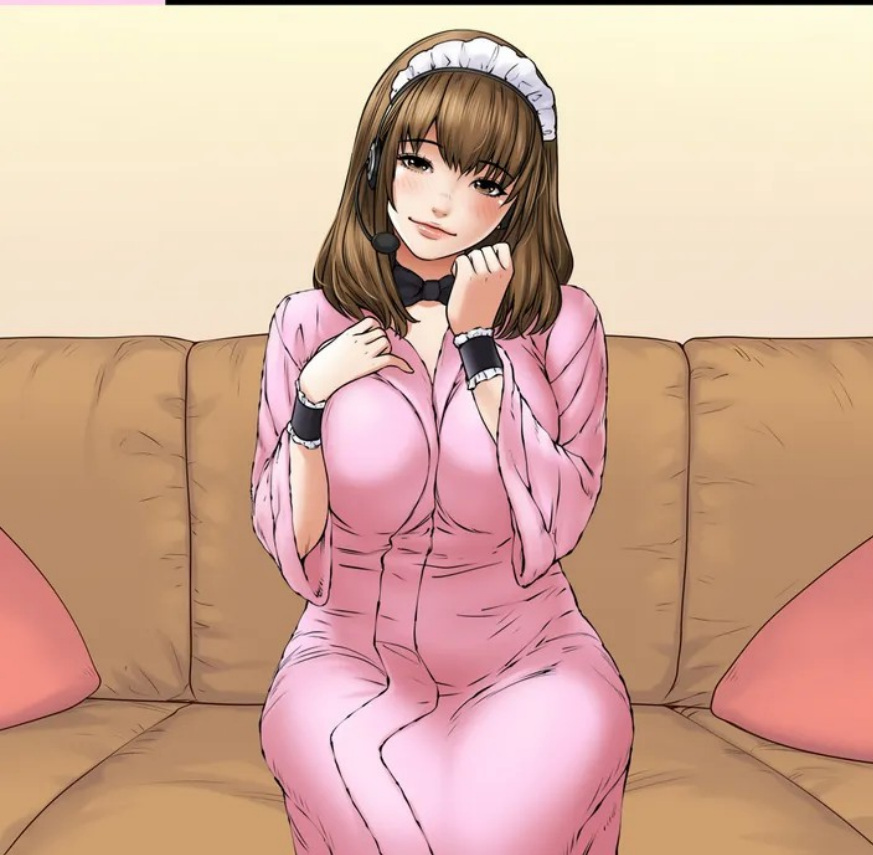
鉄人45号さんが1000コイン送りました。

ビエトロさんが200コイン送りました。



マルチ

4人チャット中 17人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？

充：ガウン脱いで欲しいな

ビエトロ：だから早く脱げよ

朱里：みんな下が気になるみたいですね！

朱里：それじゃあ皆さんから

朱里：1000コインいただいたら

脱いじゃいますよ～

充さんが1000コイン送りました。

鉄人45号さんが1000コイン送りました。

ビエトロさんが200コイン送りました。

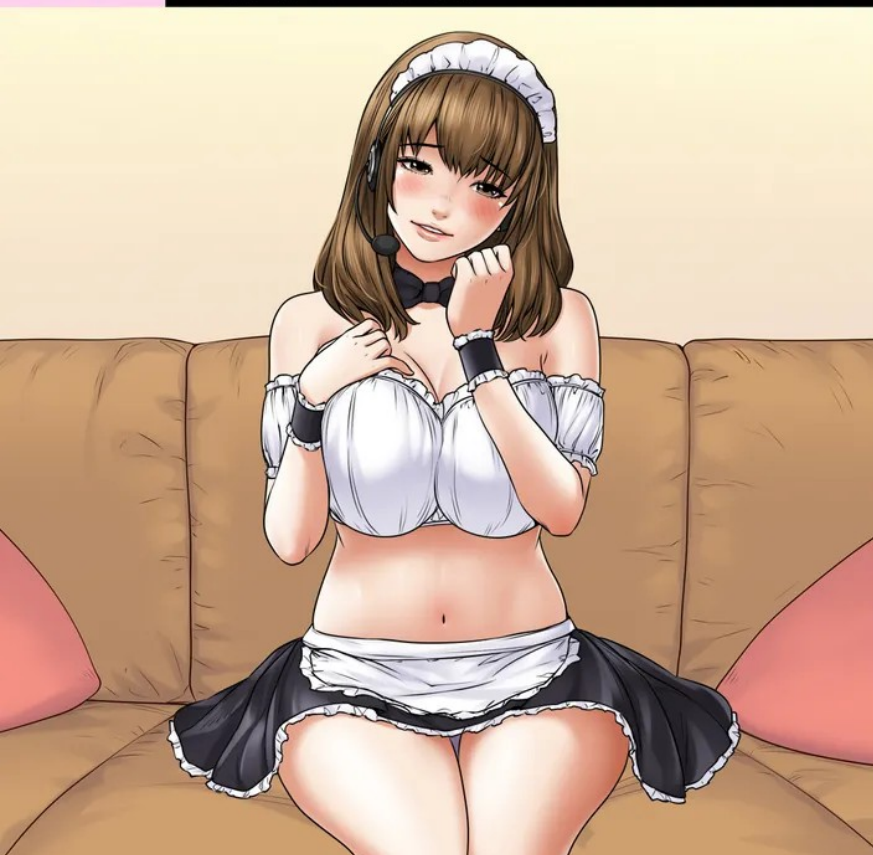
朱里：凄い！

こんなにありがとうございます～

朱里：じゃあ脱いじゃいます！

マルチ

4人チャット中 17人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？

充：ガウン脱いで欲しいな

ビエトロ：だから早く脱げよ

朱里：みんな下が気になるみたいですね！

朱里：それじゃあ皆さんから

朱里：1000コインいただいたら

脱いじゃいますよ～

充さんが1000コイン送りました。

鉄人45号さんが1000コイン送りました。

ビエトロさんが200コイン送りました。

朱里：凄い！

こんなにありがとうございます～

朱里：じゃあ脱いじゃいます！

朱里：じゃーん！下はちょっとエッチな
メイド衣装でした～

マルチ

4人チャット中 17人のぞき中

観人45号：どんな衣装だろう？

充：ガウン脱いで欲しいな

観人46号：はあ、目ノ脚ぱと

乳首勃ってる？

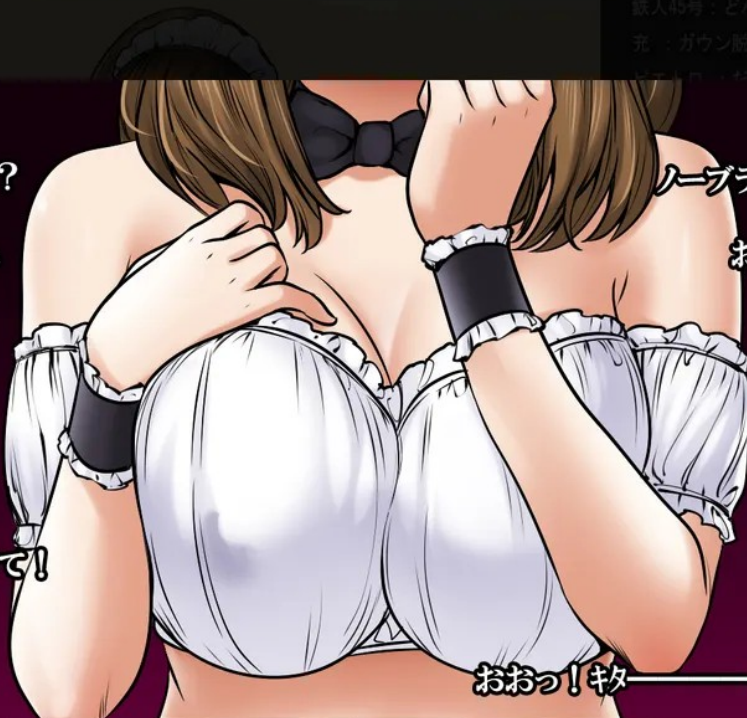
エロい

ノーブラじゃん

おっぱいおっぱい！

もっとカメラに寄って！

おおっ！キタ——(°▽°)——！！



マルナ

4人チャット中 17人のぞき中

観入45号：どんな衣装だろう？

充：ガウン脱いで欲しいな

観入45号：おんなの身ノ脱げト

勃起不可避hshs

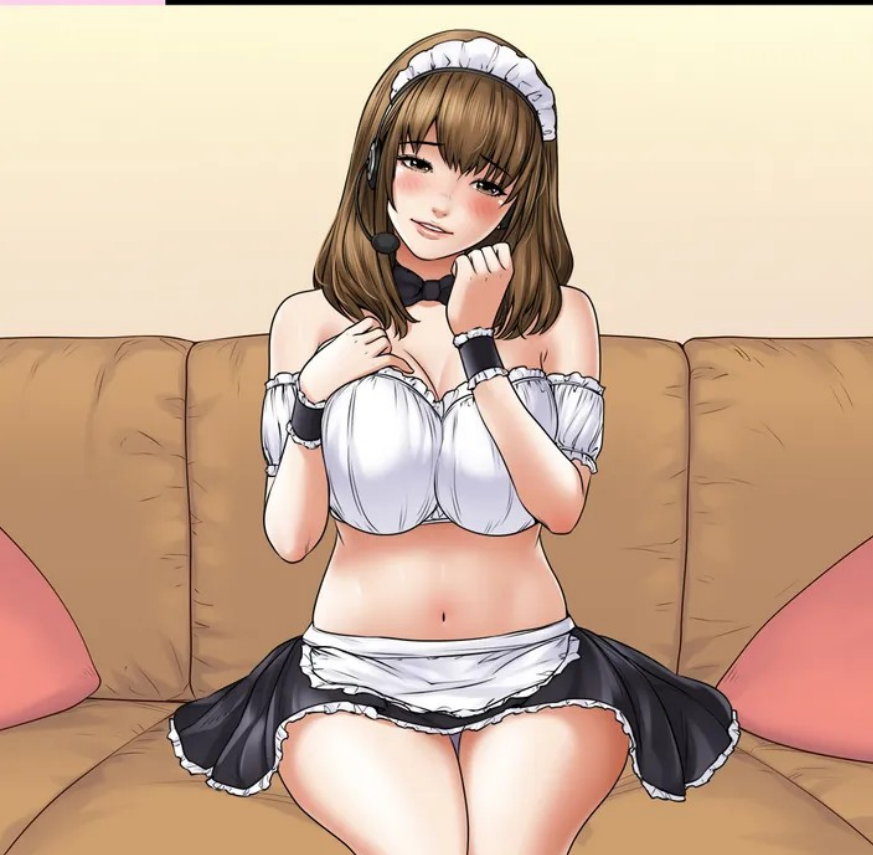
パンツパンツパンツパンツパンツ

45454545454545

へそ可愛い♥

もっと足開いて見せてー！

見えそうで見えないのが逆にエロいな



鉄人45号：どんな衣装だろ？

充：ガウン脱いで欲しいな

ピエトロ：だから早く脱げよ

朱里：みんな下が気になるみたいですね！

朱里：それじゃあ皆さんから

朱里：1000コインいただいたら

脱いじゃいますよ～

充さんが1000コイン送りました。

鉄人45号さんが1000コイン送りました。

ピエトロさんが200コイン送りました。

朱里：凄い！

こんなにありがとうございます～

朱里：じゃあ脱いじゃいます！

朱里：じゃーん！下はちょっとエッチな

メイド衣装でした～

鉄人45号：似合いすぎる！

充：とっても可愛いけど

動いたら下も見えちゃいそう…

ピエトロ：それも脱げ

朱里：鉄人45号さんありがとう～

朱里：実は胸には絆創膏貼ってるんで

朱里：ポロリはないです！

朱里：ピエトロさんはせっかちですね～

マルチ

4人チャット中 10人のぞき中



朱里：脱ぐのもいいですけど

朱里の恥ずかしいところ

見てくれませんか？

鉄人45号：見たい！

今日はその衣装でしてくれるの？

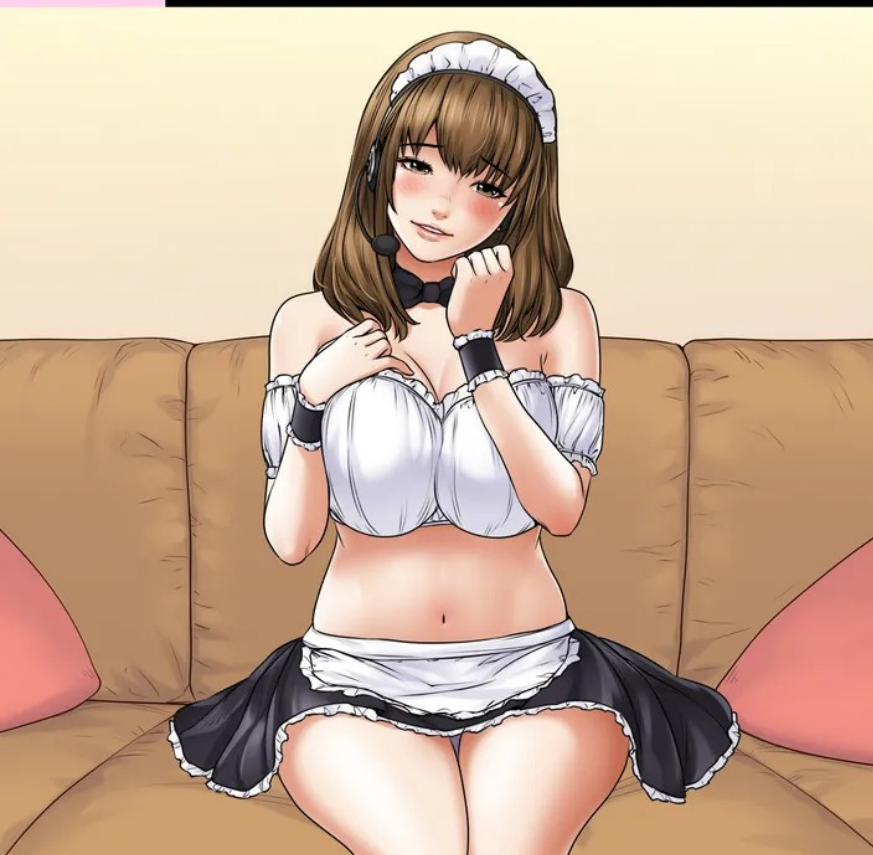
充：いつでも準備できてるよ

ビエトロ：見せてみろ

朱里：それじゃあ恥ずかしいけど

5000コインいただいたら

見せちゃおうかな



朱里：脱ぐのもいいですけど

朱里の恥ずかしいところ

見てくれませんか？

鉄人45号：見たい！

今日はその衣装でしてくれるの？

充：いつでも準備できてるよ

ピエトロ：見せてみる

朱里：それじゃあ恥ずかしいけど

5000コインいただいたら

見せちゃおうかな

充さんが5000コイン送りました。

鉄人45号さんが5000コイン送りました。

ピエトロさんがこのルームを退出了しました。

朱里：充さん、鉄人45号さんありがとう～

朱里：二人とも大好きです！

朱里：ピエトロさんどうしちゃったのかな？

鉄人45号：朱里ちゃん早く見せて

充：準備は万全だよ

朱里：それじゃあはじめるね！

朱里：今からちょっとチャットは

できなくなるけど…

朱里：朱里の恥ずかしいところ見てください

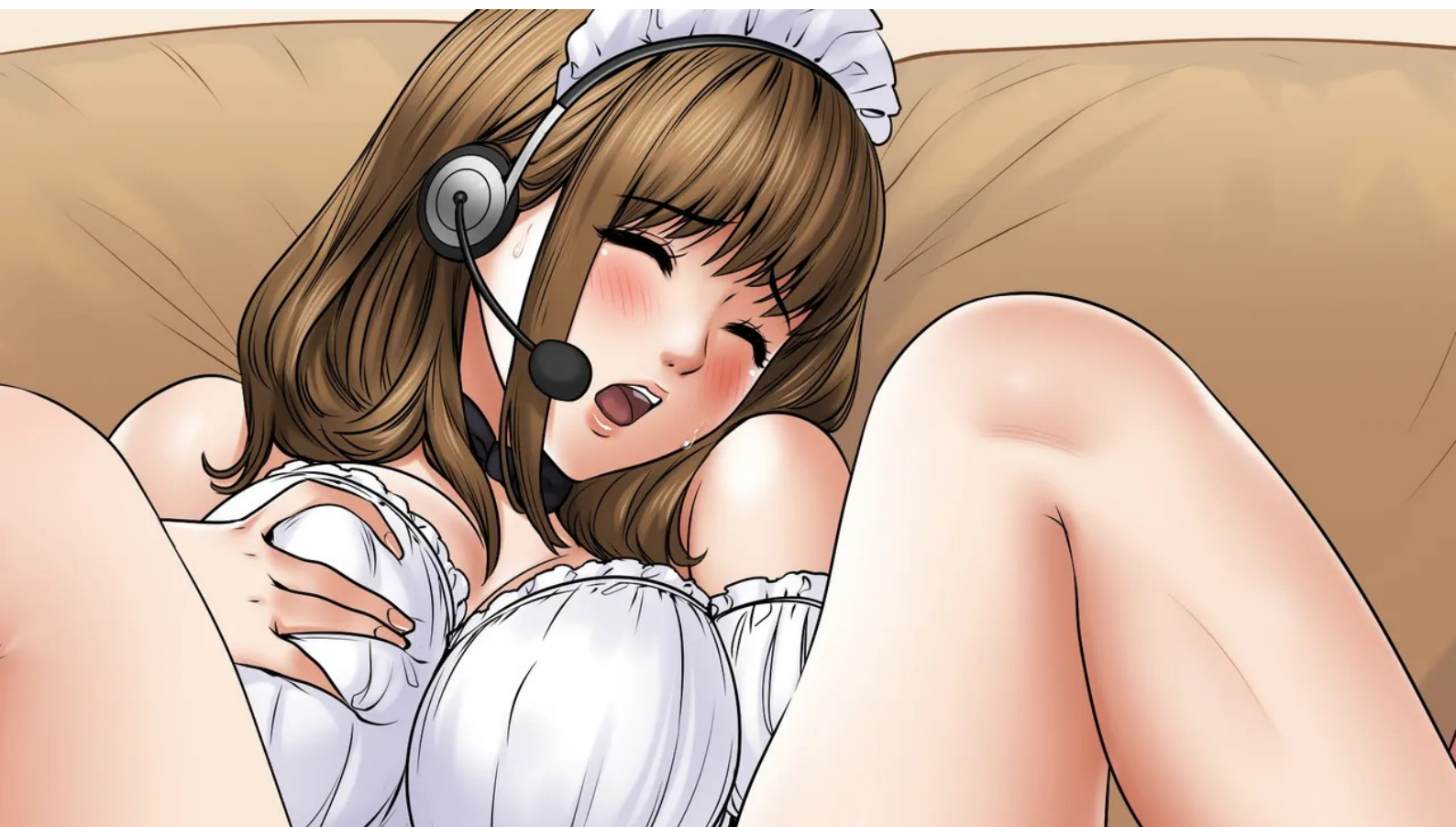




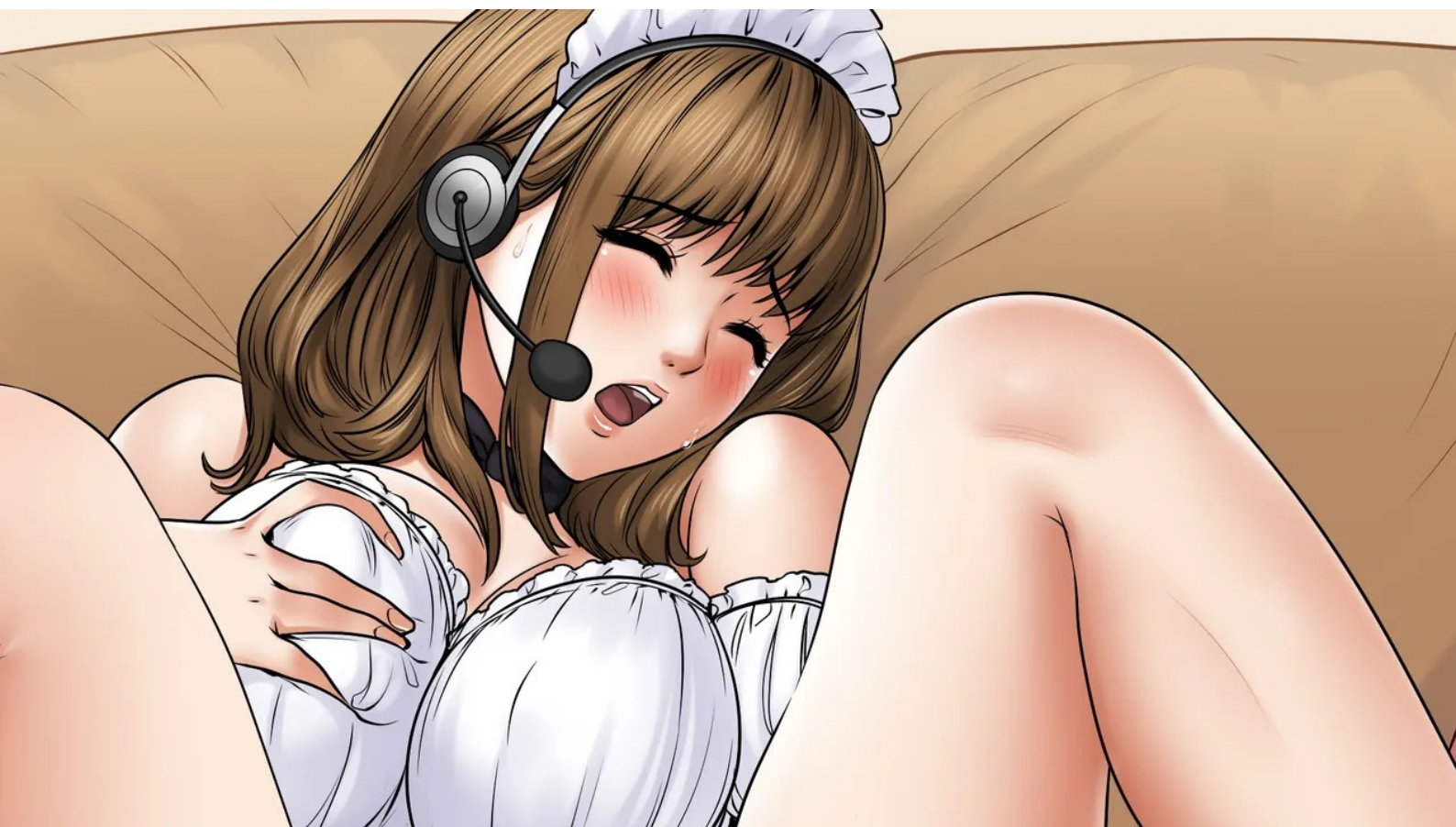


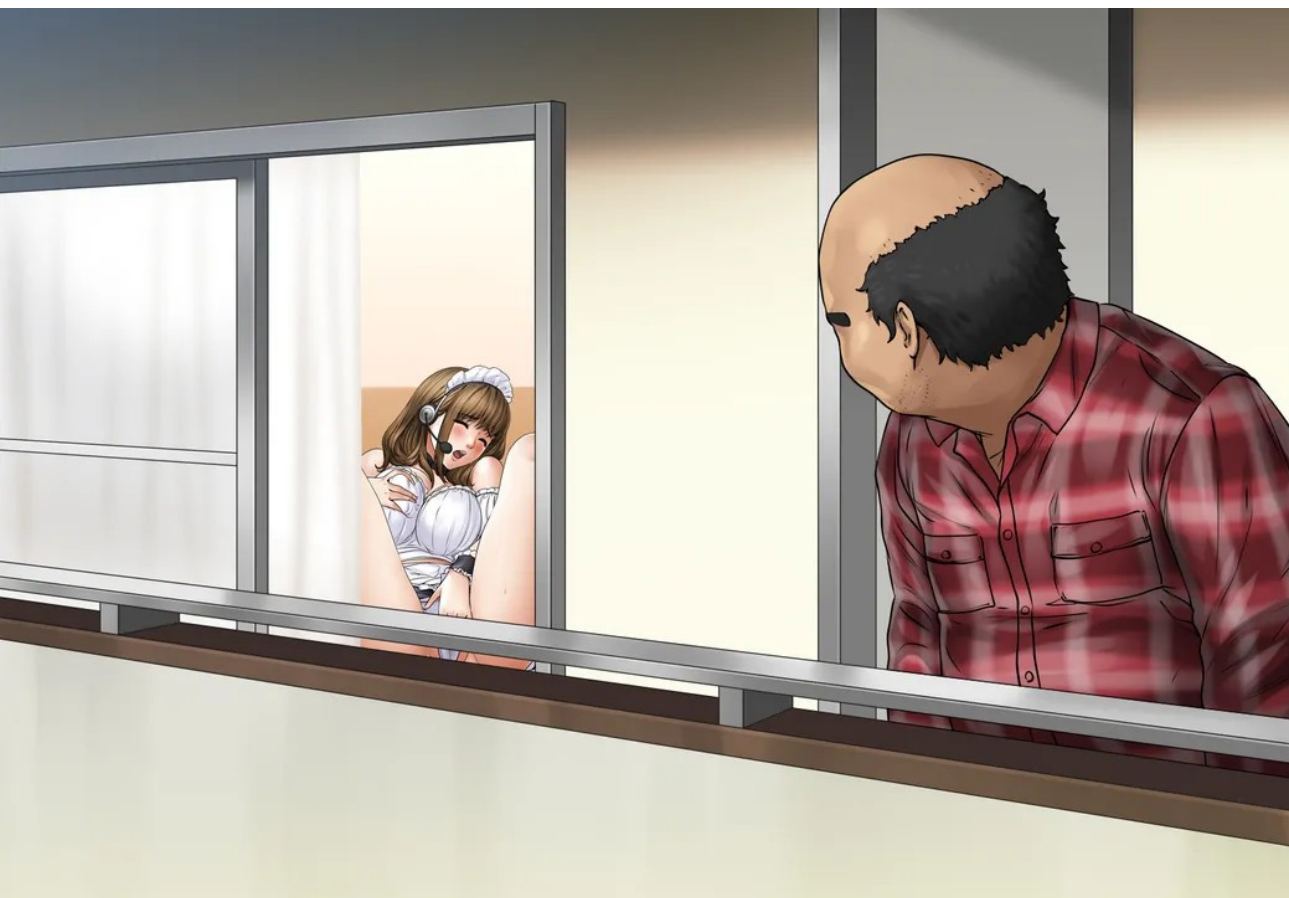


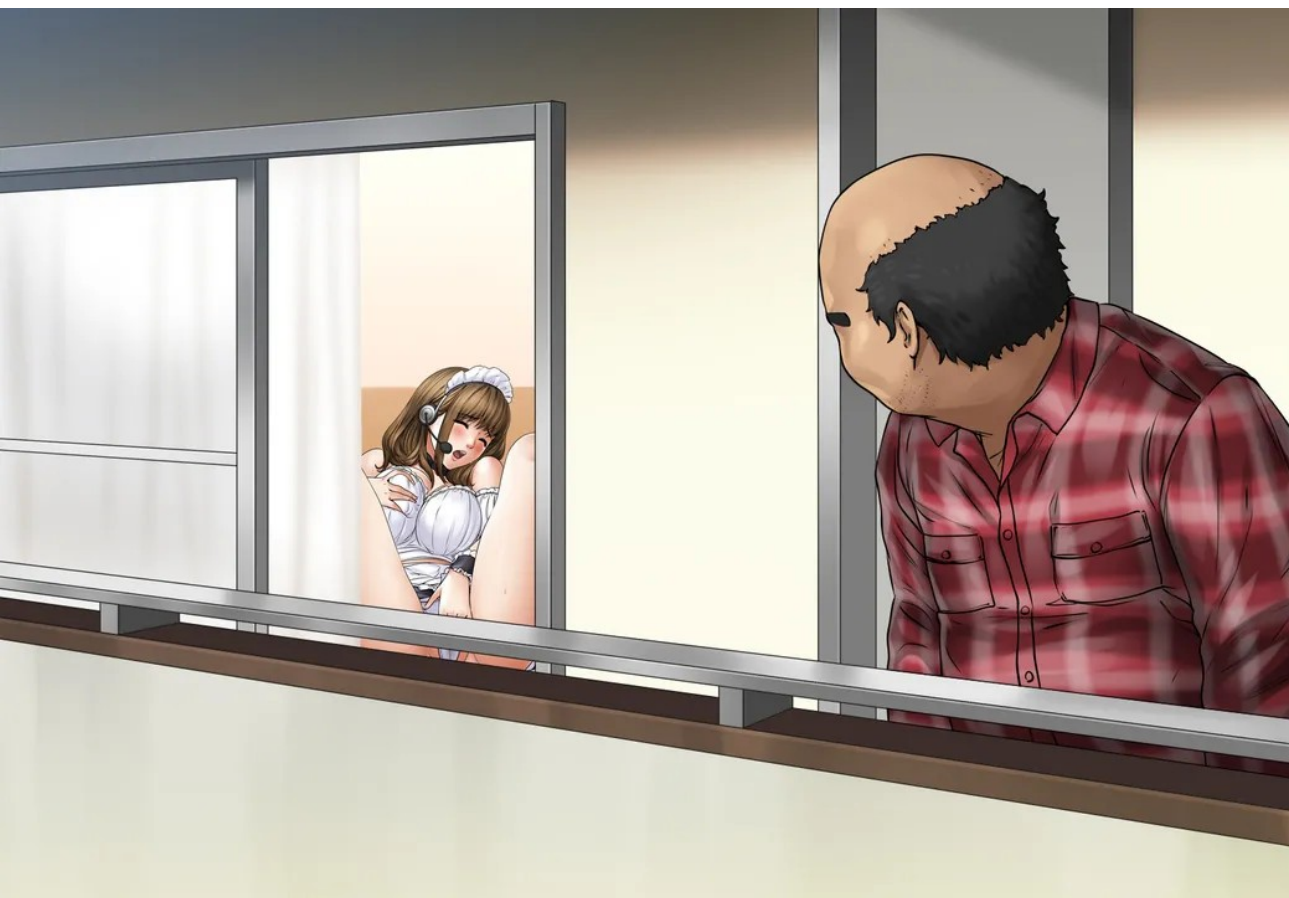










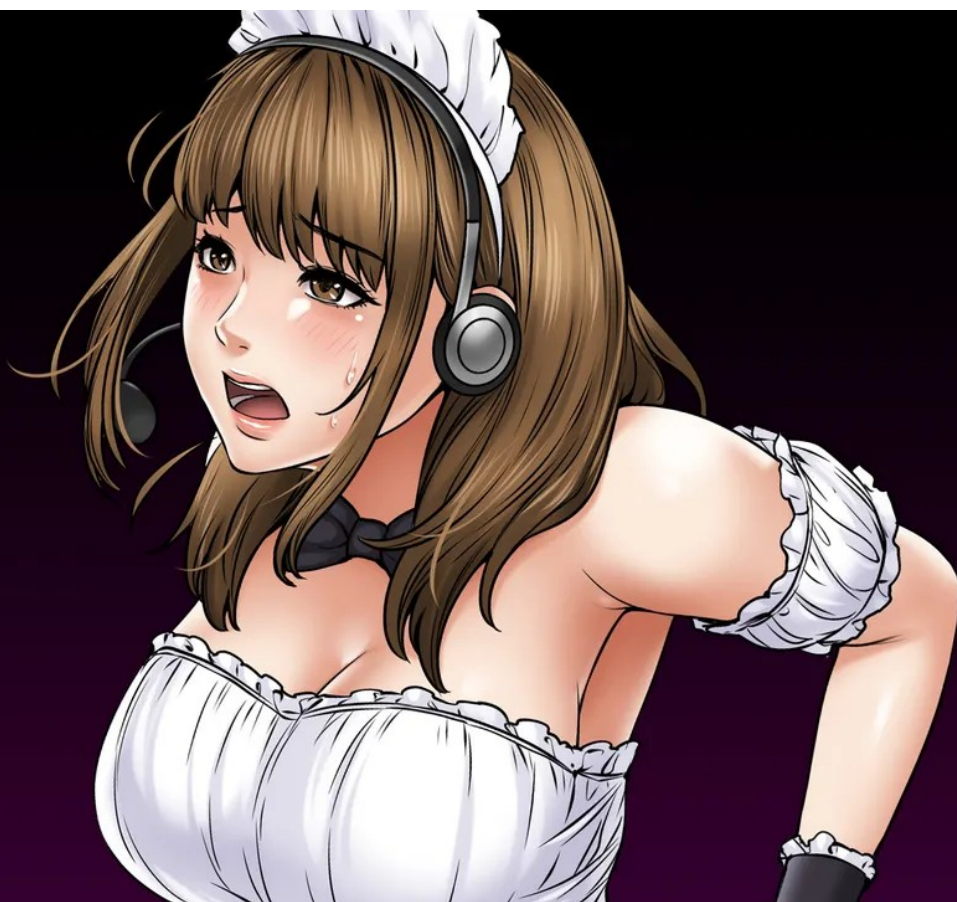
















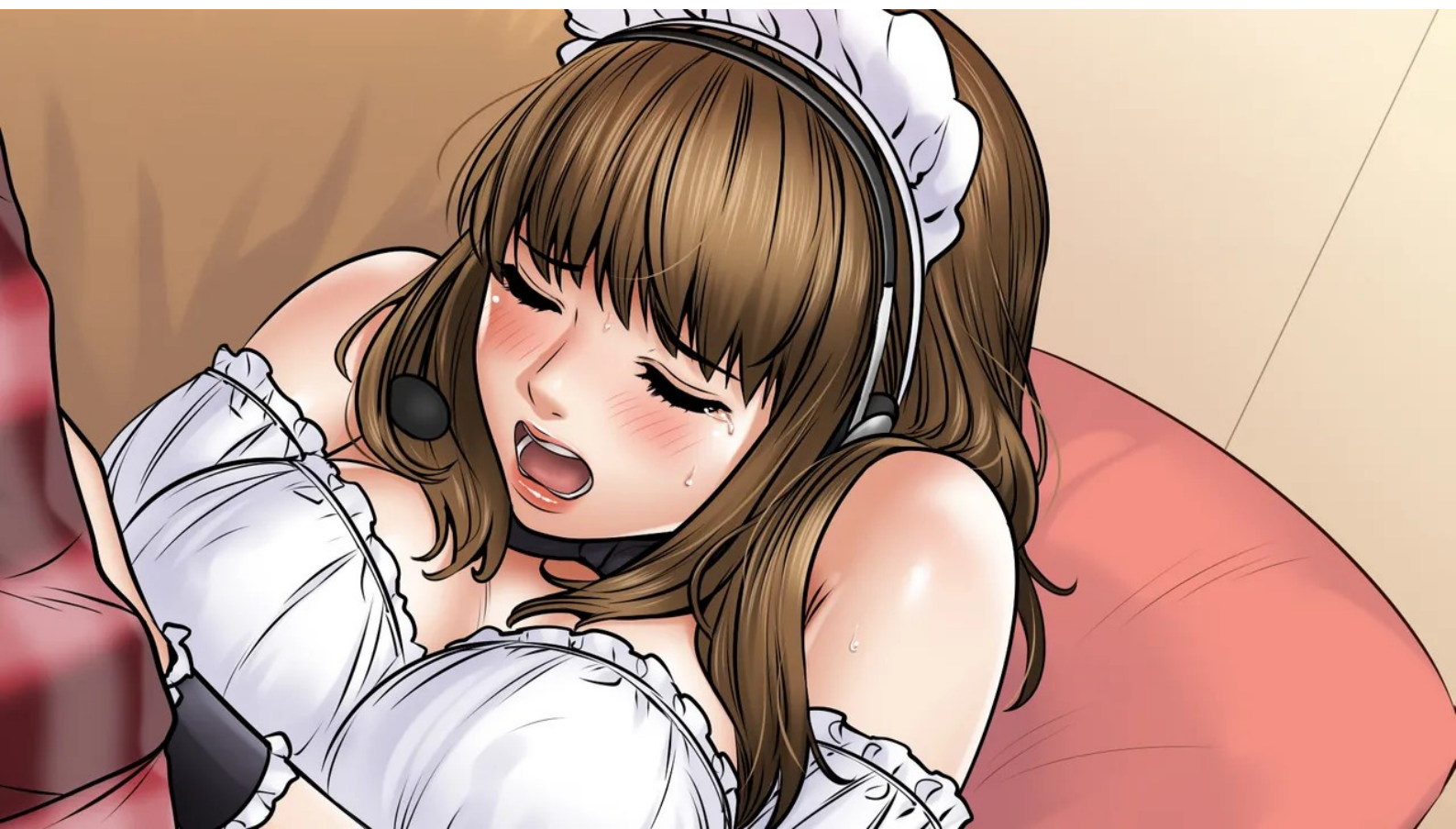










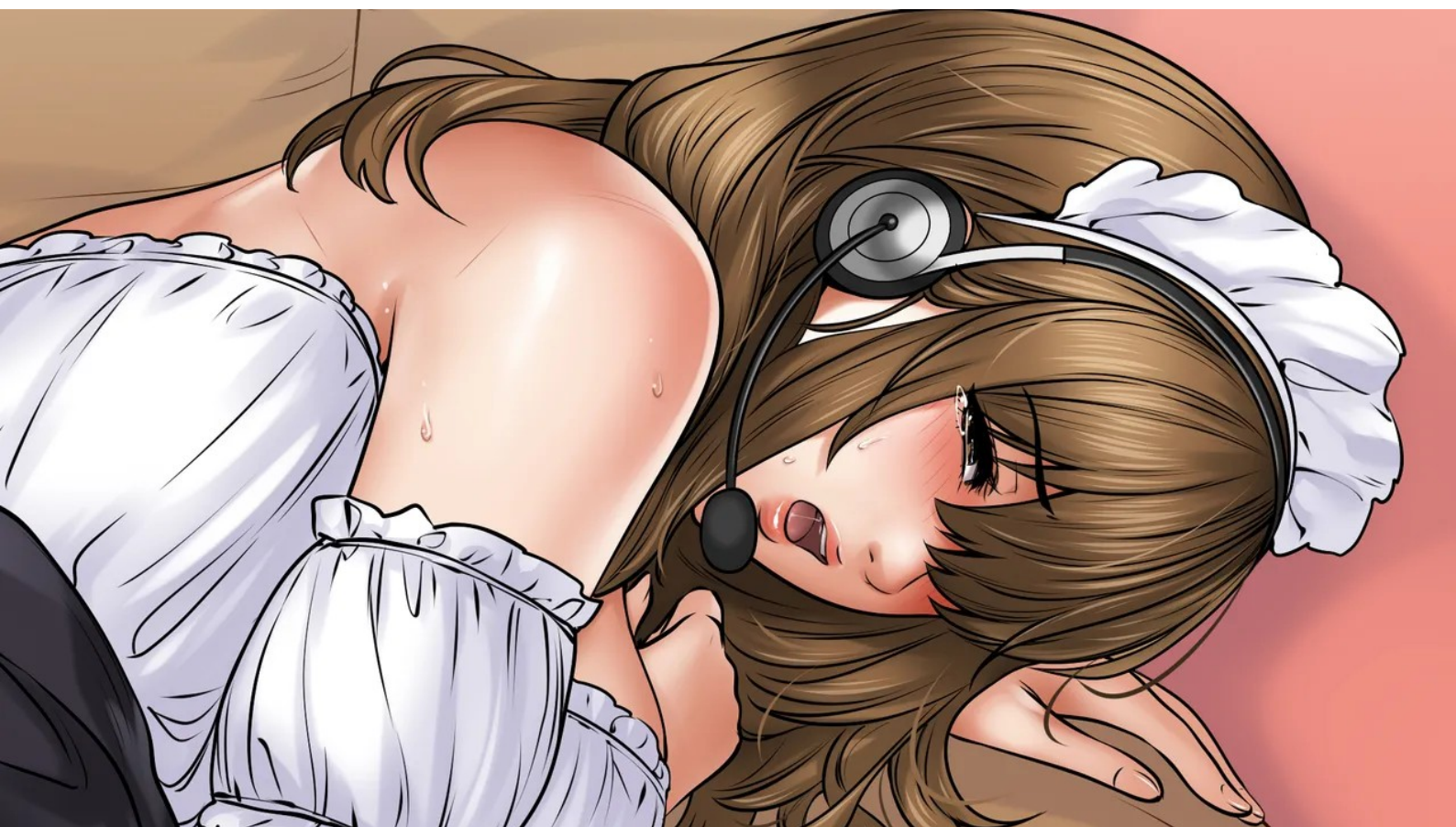
















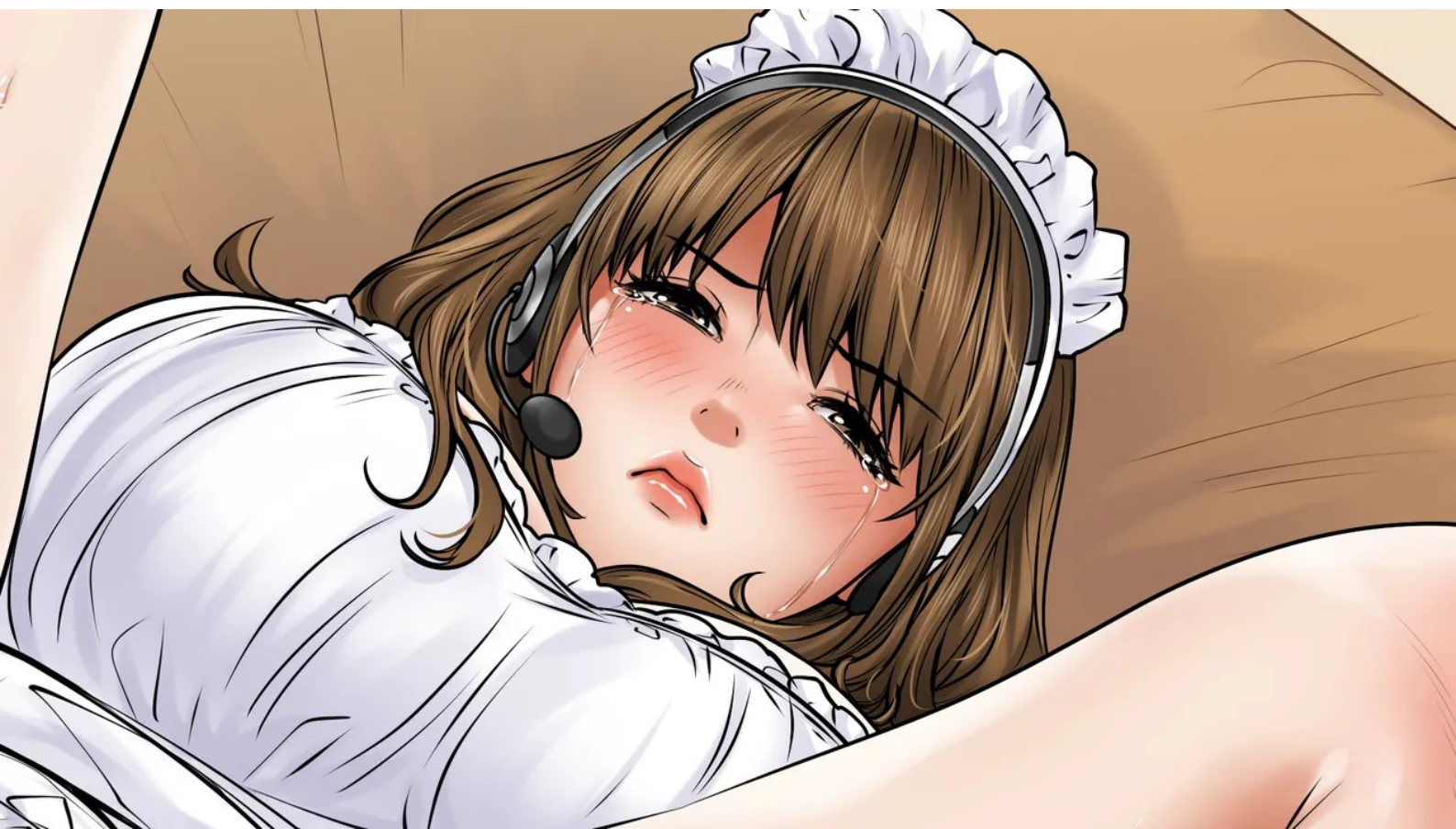
















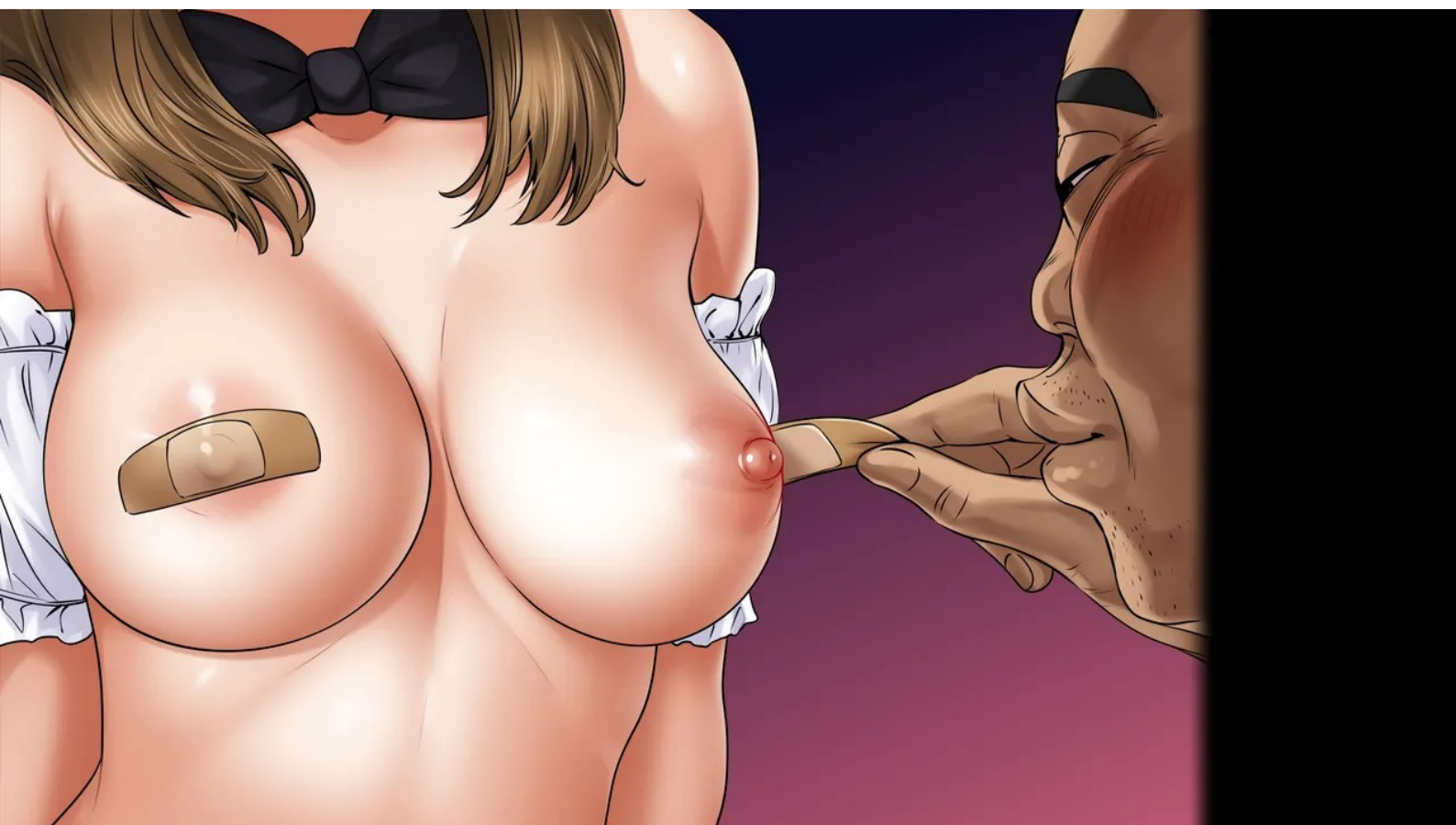






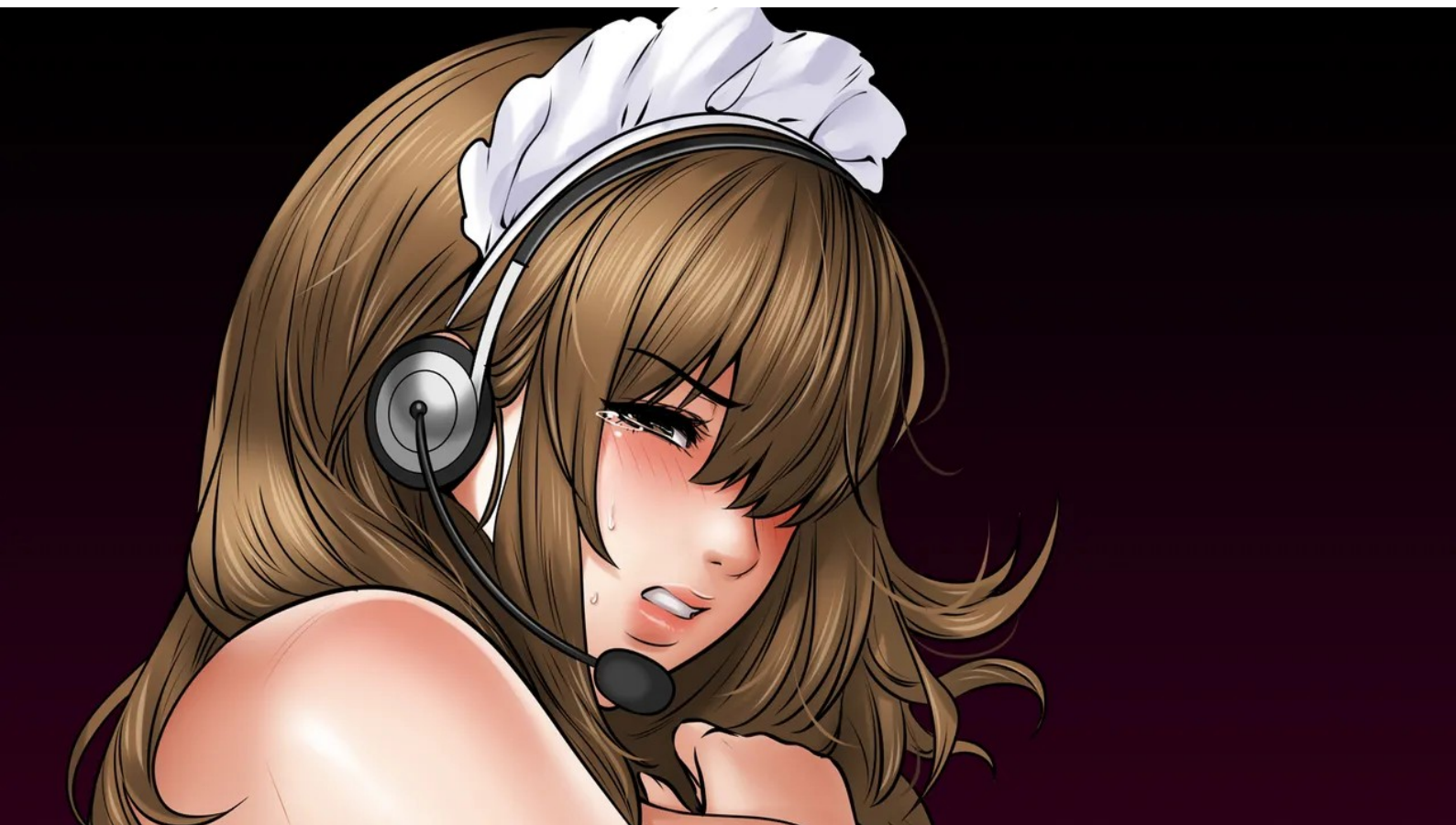














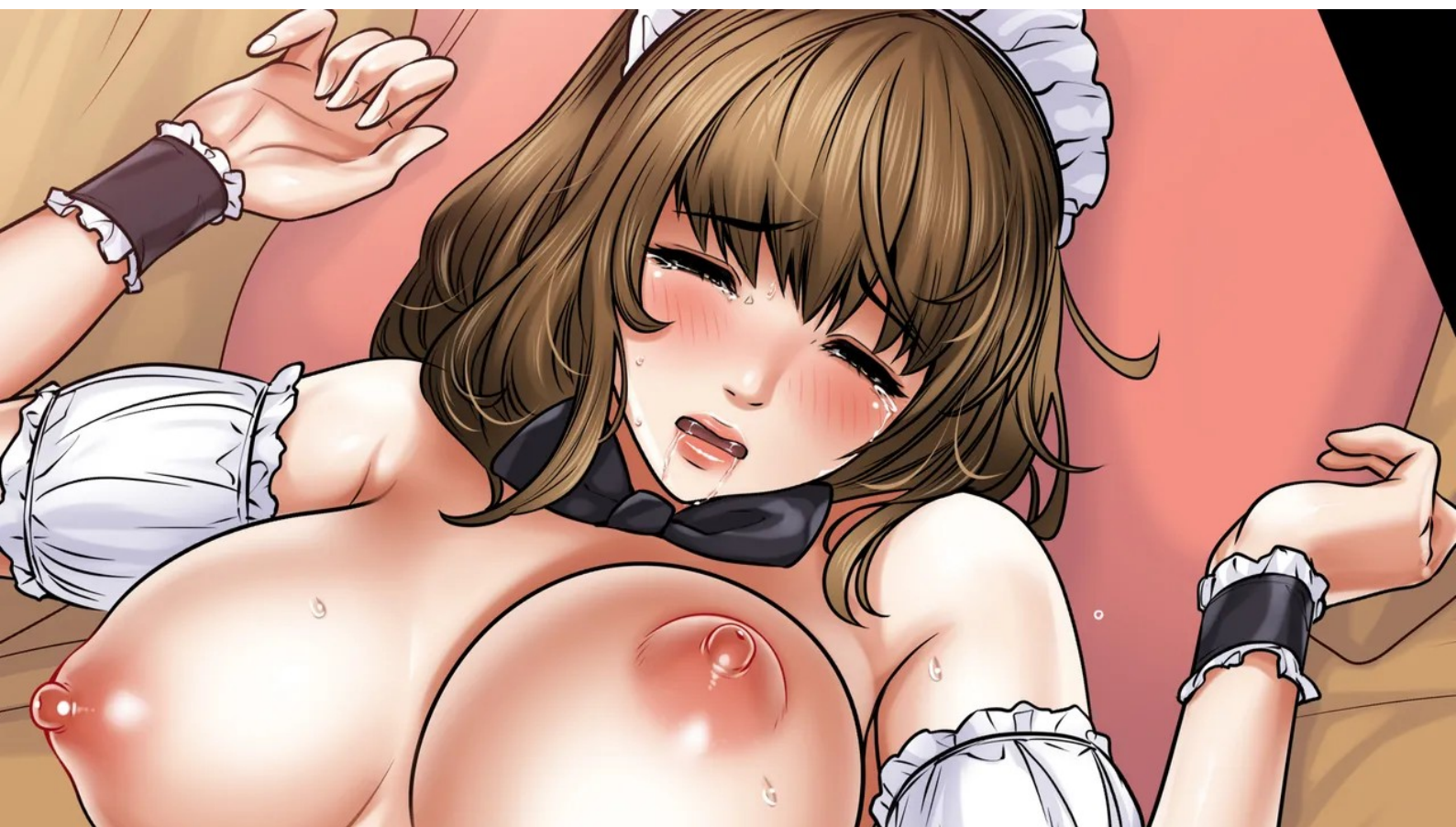


























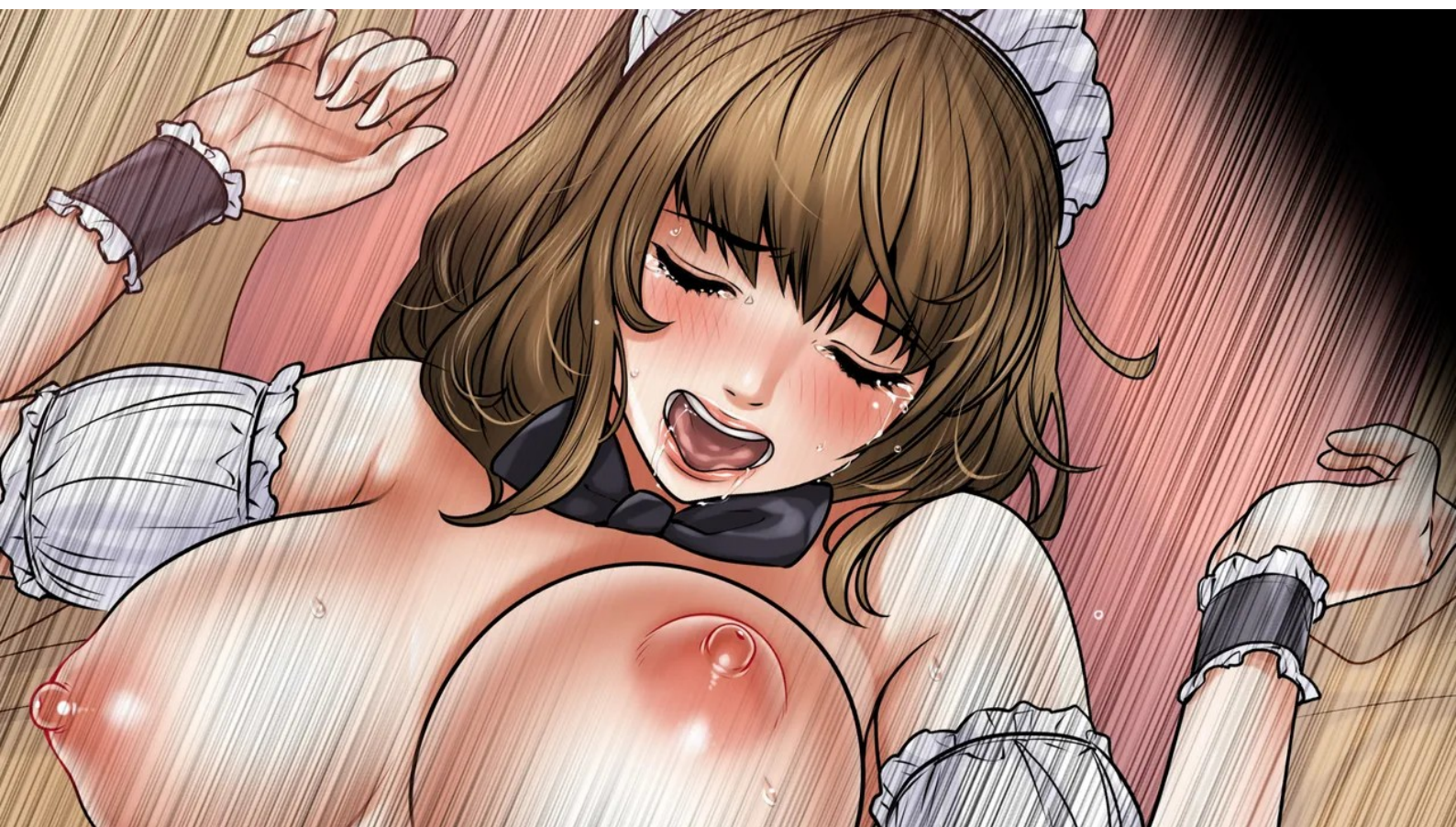








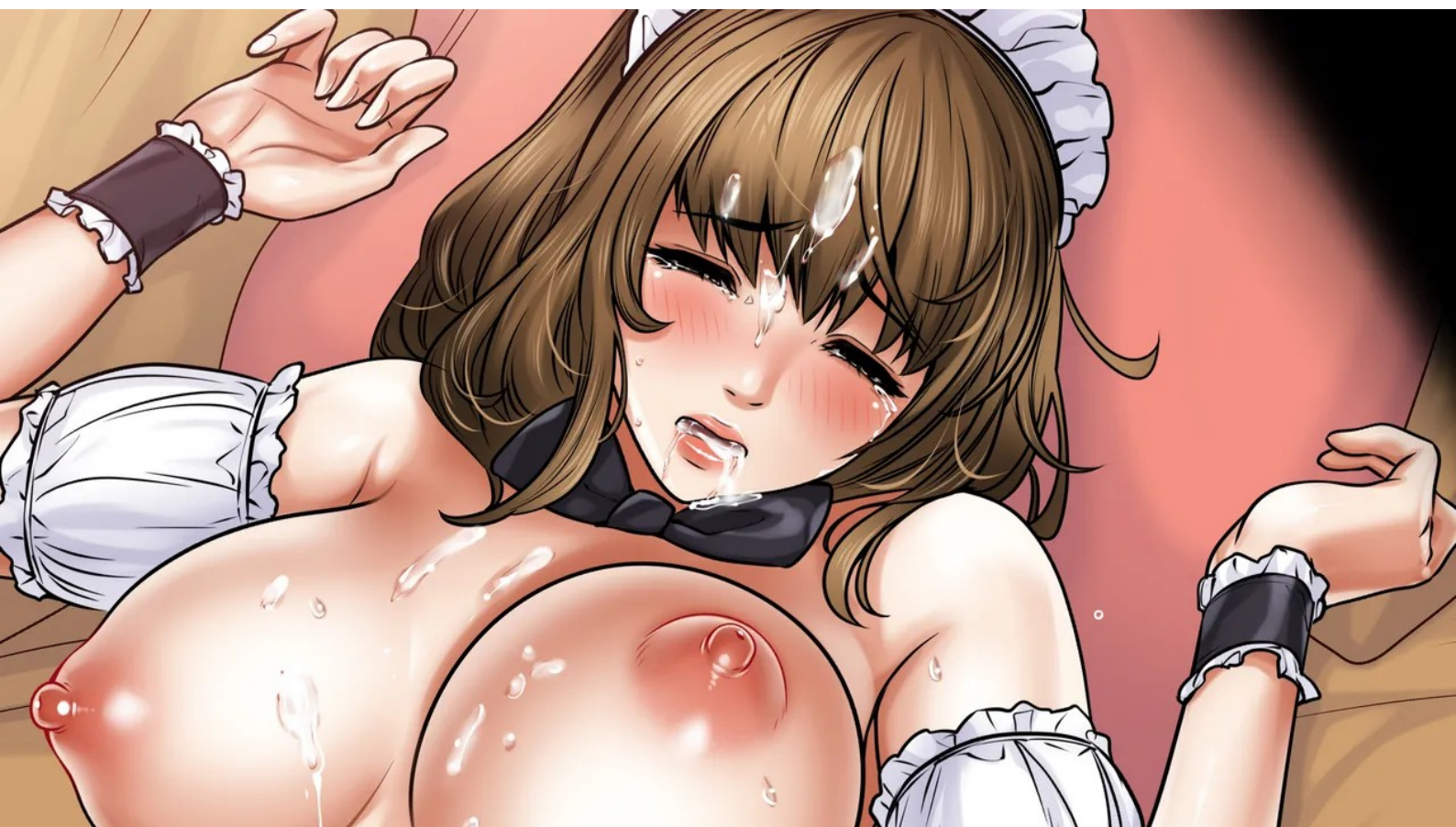














鉄人45号 : 誰だ?この男?
ピン介 : 朱里ちゃん尻エロすぎ
カゲロウ : これ運営的に大丈夫なのかな?
KinKin : なんだこれ?
鉄人45号 : 朱里ちゃん大丈夫なの?
ぶっさん : もっとおっぱい責めろ!
部屋と私 : 女の子エロ過ぎでしょう
You : これってレイプだろ?
学徒の拳 : 投げ銭なしでここまでやってくれるのか?
黒りんご : めちゃめちゃ抜ける
下郎マン : 絆創膏はつけたままがよかったけどな
イカリ : 男精子すぎだろ
宗男 : お 男気が付いたぞ
寺さん : 男ちんこ隠せよな
ボブ : これから3Pとかあるかな?



鉄人45号 : 誰だ?この男?
ピン介 : 朱里ちゃん尻エロすぎ
カゲロウ : これ運営的に大丈夫なのかな?
KinKin : なんだこれ?
鉄人45号 : 朱里ちゃん大丈夫なの?
ぶっさん : もっとおっぱい責めろ!
部屋と私 : 女の子エロ過ぎでしょう
You : これってレイプだろ?
学徒の拳 : 投げ銭なしでここまでやってくれるのか?
黒りんご : めちゃめちゃ抜ける
下郎マン : 絆創膏はつけたままがよかったけどな
イカリ : 男精子すぎだろ
宗男 : お 男気が付いたぞ
寺さん : 男ちんこ隠せよな
ボブ : これから3Pとかあるかな?

マルチ

37人チャット中 306人のぞき中

